



伊豆の国市地域公共交通計画 資料編

伊豆の国市

目次

資料1 令和5年度までの取組実績

- 1. 伊豆の国市地域公共交通基本計画の取組実績 . . . 1

資料2 現況調査結果

- 1. 人口と移動特性 . . . 5
- 2. 公共交通の現状 . . . 7
- 3. 交通事業者ヒアリング調査結果 . . . 13
- 4. 地区座談会の結果 . . . 14
- 5. 市民アンケート調査結果 . . . 16
- 6. 観光客ヒアリング調査結果 . . . 54
- 7. 観光事業者ヒアリング調査結果 . . . 63

参考資料

- 1. 策定体制 . . . 64
- 2. 策定の経緯 . . . 65

資料1 令和5年度までの取組実績

1. 伊豆の国市地域公共交通基本計画（H26～R5）の取組実績

基本方針	具体的な方策		具体的な取組内容	取組の実績
子どもの安全・安心の確保と子育てを支える公共交通	1-1	遠距離通学の児童生徒の安全性確保	・安全な乗降場所の確保とバス停環境整備の支援	・バス停「大仁小学校前」のバス乗降専用レーン、上屋、待合ベンチの設置
			・バスの乗り方教室の実施	・市内6小学校低学年向けに平成24年度から継続して実施 (延べ参加者 1,514人)
			・バス停の安全性確保対策が必要だと思われるバス停への対応	・安全確保が必要だと思われるバス停の移設等(令和3年度に市内17箇所に対して7箇所を実施済)
	1-2	スクールバスの導入及び活用の研究	・制度の研究及び教育部との協議	・教育部局とスクールバス導入に向けた協議を実施(～平成28年度)結論は「路線バスの活用を継続する」
			・自主運行バスとの運行内容協議	・小中学校の登下校の時間に合わせたダイヤ改正の実施(随時)
	2-1	遠距離通学の児童・生徒の保護者へのバス定期券の補助等	・小中学校遠距離通学費補助金(定期券代全額支給)	・遠距離通学児童を対象に路線バス定期券の購入支援を実施(平成28年度～継続中)
・通学下校時の搬送支援(乗合タクシー運行)			・大仁小及び大仁北小学校児童への下校時の搬送支援(平成28年度～継続中)	
・市自主運行バス運行による移動手手段の確保			・自主運行バス事業の継続的な実施。小中学校の登下校の時間に合わせたダイヤ改正の実施(適宜)	
高齢者等の自由な移動を支える公共交通	3-1	高齢者の生活スタイルに合わせた公共交通網、ダイヤ等の見直し	・路線バス等へのパーク＆ライドの実施(田原野バス停)	・田原野バス停へのパーク＆ライドの整備(平成28年度実施)
			・先進地の調査及び研究	・先進地視察の実施。富士宮市(平成30年度)や愛知県豊明市(令和2年度)
	4-1	福祉タクシー・バス・鉄道利用券の効果的な活用	・福祉タクシー等利用券の継続的な交付による高齢者の社会参加支援	・福祉タクシー券の継続的な実施(平成20年度～)
			・タクシー・バス・鉄道利用券の交付による公共交通利用促進	・期間を定めたバス鉄道利用券の追加交付の実施(平成29年度～令和元年度)
	4-2	高齢者デマンド交通等の導入	・新たな公共交通の構築に向けた検討	・制度設計のための調査研究の実施(平成26年度～継続中)
			・先進地の調査及び研究	・富士宮市の宮タク等への先進地視察の実施(平成30年度)
・山間地域の予約型乗合タクシー制度導入及び検討			・立花台、星和地区/星の花号(平成29年度)、立花地区/立花Go!(令和2年度)への導入	

基本方針	具体的な方策		具体的な取組内容	取組の実績
来訪者への情報提供と利便性の高い公共交通	5-1	バス停がプロットされた観光マップ、運行ダイヤ、料金の掲載	・公共交通が明記された観光ルートマップの作成	・歴バスのる～らのパンフレットの作成(平成27年度～令和5年度)
			・市HPの充実(市内の公共交通の紹介)	・市の取組等を紹介したホームページの作成及び更新(随時)
			・観光部署や大型観光企画との施策連携	・静岡DC/デスティネーションキャンペーン静岡版との連携による事業の実施(令和元年度)
	6-1	観光を意識したバスルート(観光ルート)	・観光周遊型葦山反射炉循環バスの運行	・大河ドラマ関連施設をふまえたバスルートや便数に変更し運行を実施(~令和4年度)
			・観光庁の補助金を活用した周遊バスの実証運行	・大河ドラマ館をふまえた運行内容で実証運行を実施(令和3年度、令和4年度)
			・乗車券を活用した寄り道特典事業の実施	・1日乗車券購入者への寄り道特典の実施(平成29年度)
・歴バスのる～らラッピングバス実施			・ラッピングの実施(平成28年度)、観光庁補助金を活用した義時ラッピングの実施(令和3年度)	
6-2	親しみのあるバスネーミング	・観光周遊型葦山反射炉循環バスの愛称募集	・愛称募集及び最優秀愛称の決定「歴バスのる～ら」(平成28年度)	
		・てつぎえもんを活用した歴バスのる～らの啓発活動	・市広報誌への定期的な特集記事の掲載(直近では、令和元年度、令和4年度)	
市民の日常生活の移動を確保する公共交通	7-1	バスの乗り方教室	・バスの乗り方教室の開催	・市内6小学校低学年向けに平成24年度から継続して実施(延べ参加者1,514人)
			・職場体験教室(バスの車内アナウンス体験)実施	・市内小学校の児童を対象に実施(平成27年度)
			・伊豆の国市高齢者学級での講演	・寿大学高齢者学級での実施(平成28年度)
	7-2	利用者の視点にたったバス路線図、時刻表の作成	・バスだよりの配布(自主バス沿線地域)	・亀石峠線や千代田団地線沿線住民への配布(延べ5報)
			・公共交通マップの作成(改訂)及び配布	・くらしの公共交通まるごとマップの作成(平成30年度)及び改訂(令和4年度)
	7-3	低床バス等の車両のバリアフリー化	・低床バス等の車両のバリアフリー化検討	・市内を走るバス車両へは全車両で導入済。
			・地域へのモビリティ・マネジメント(心のバリアフリー化)を推進する勉強会及び意見交換会を実施	・庁内検討を実施
	7-4	乗務員のもてなしの意識の醸成	・乗務員への研修会の開催(バス事業者)	・各バス事業者が実施
・輸送安全に関する社員研修及び講習会の開催(バス事業者)			・各バス事業者が実施	

基本方針	具体的な方策		具体的な取組内容	取組の実績
市民の日常生活の移動を確保する公共交通	8-1	バス路線の再編	・亀石峠～大仁駅前・修善寺駅線の運行経路変更(田京駅経由)	・亀石峠線田京駅への延伸を実施(平成29年度)
			・千代田団地～葦山駅線と葦山循環線の路線統合	・千代田団地～奈古谷温泉口線として路線を統合(平成30年度)
			・市広報紙への掲載(特集)の実施	・定期的に特集記事を組み、周知や啓発を実施(令和元年度、令和4年度)
	8-2	朝、夕の増便・昼間における適切なダイヤ	・地域との意見交換会実施	・公共交通に係る地区座談会を実施(令和4年度延べ8地区 参加者79人)
			・バス時刻表の見直し検討	・小中学校の登下校の時間に合わせたダイヤ改正の実施(随時)
	9-1	駅前広場の整備(待合スペース、分かりやすいバスバースなど)	・伊豆長岡駅前広場の整備	・伊豆長岡駅前に「伊豆の国市観光案内所」を開設(平成27年度)
			・待合スペース設置や分かりやすい案内版表示等の検討	・庁内検討を実施
	9-2	バス停の高機能化(バスロケーションシステム、防風ガラス付き待合室など)	・バスロケーションシステム等の支援検討	・各バス事業者が位置情報検索システム等を導入済
			・上屋やベンチ等のあるバス停整備の支援検討	・庁内検討を実施
	10-1	鉄道とバスが接続できるダイヤの見直し(シームレス)	・鉄道の乗り換えに考慮したバス運行時刻の見直し(随時)	・小中学校の登下校の時間にも考慮したダイヤ改正の実施(随時)

基本方針	具体的な方策		具体的な取組内容	取組の実績
市民・交通事業者・行政の協働による公共交通の育成・支援	11-1	立花台区及び星和区の取組みへの支援	<ul style="list-style-type: none"> ・星和立花台、立花の予約型乗合タクシー実証運行実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との協議を経て、実証運行を実施(結果:両地区とも本格運行の開始条件を達成)
			<ul style="list-style-type: none"> ・星和立花台、立花の予約型乗合タクシー本格運行実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・実証実行の結果により本格運行を実施(星和立花台 平成29年度、立花 令和4年度)
			<ul style="list-style-type: none"> ・他地域への予約型乗合タクシー制度の説明会実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・希望のあった地域への説明会や住民アンケートの実施(延べ4地区)
			<ul style="list-style-type: none"> ・地域公共交通利用促進活動補助金の活用促進 	<ul style="list-style-type: none"> ・星の花号コミュタク委員会及び立花 Go!コミュタク委員会で活用(令和元年度～継続中)

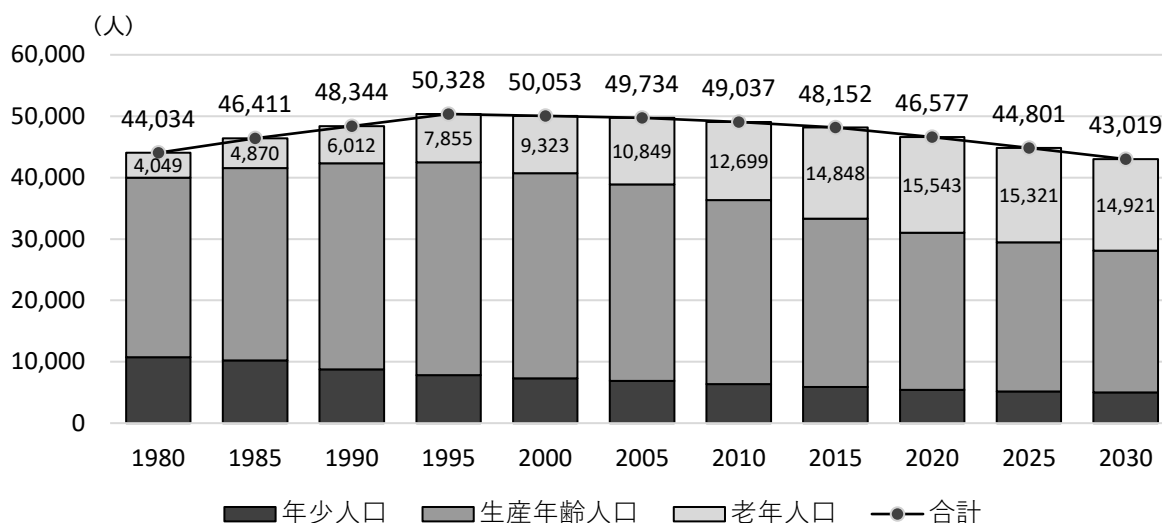
資料2 現況調査結果

1. 人口と移動特性

国勢調査による本市の総人口は1995年まで増加してきましたが、1995年をピークに減少に転じ、その後は減少が続いています。1995年の総人口50,328人は2015年には48,152人となり、20年間で2,176人(4.3%)減少しています。

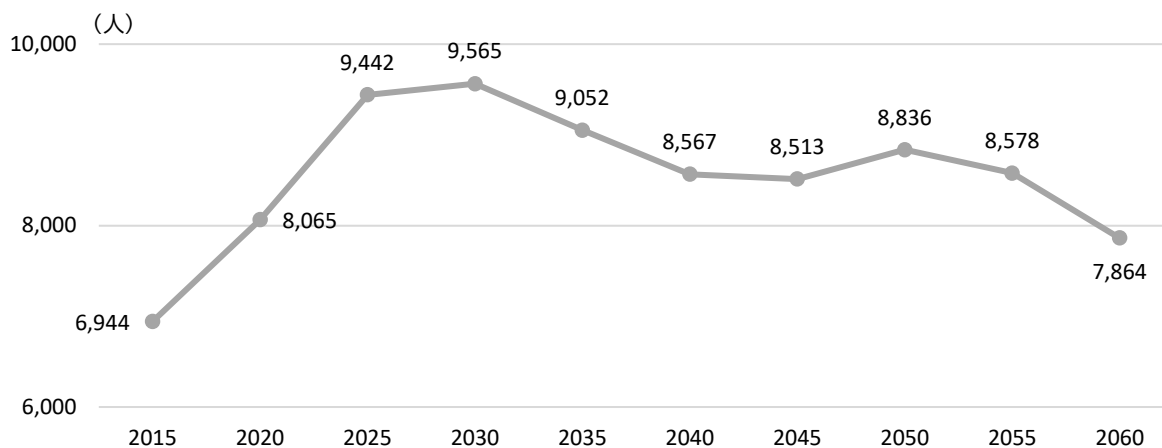
伊豆の国市人口ビジョンによる人口の将来展望では、老年人口(65歳以上)は一貫して増加しており、2020年にピークを迎えると推定されています。また、75歳以上人口も2030年に一度ピークを迎え、長期的には減少すると推定されています。

■年齢3区分別人口の推移



出典:伊豆の国市 まち・ひと・しごと創生長期人口ビジョン(令和2年改訂版)

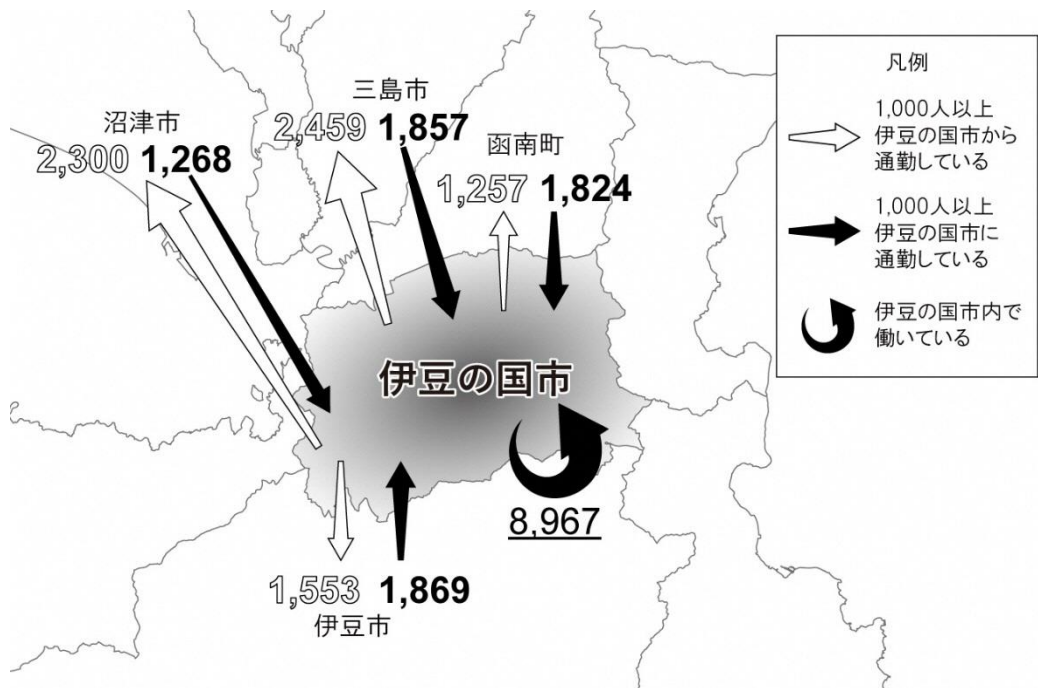
■75歳以上人口の推計



出典:伊豆の国市 まち・ひと・しごと創生長期人口ビジョン(令和2年改訂版)

■通勤移動特性

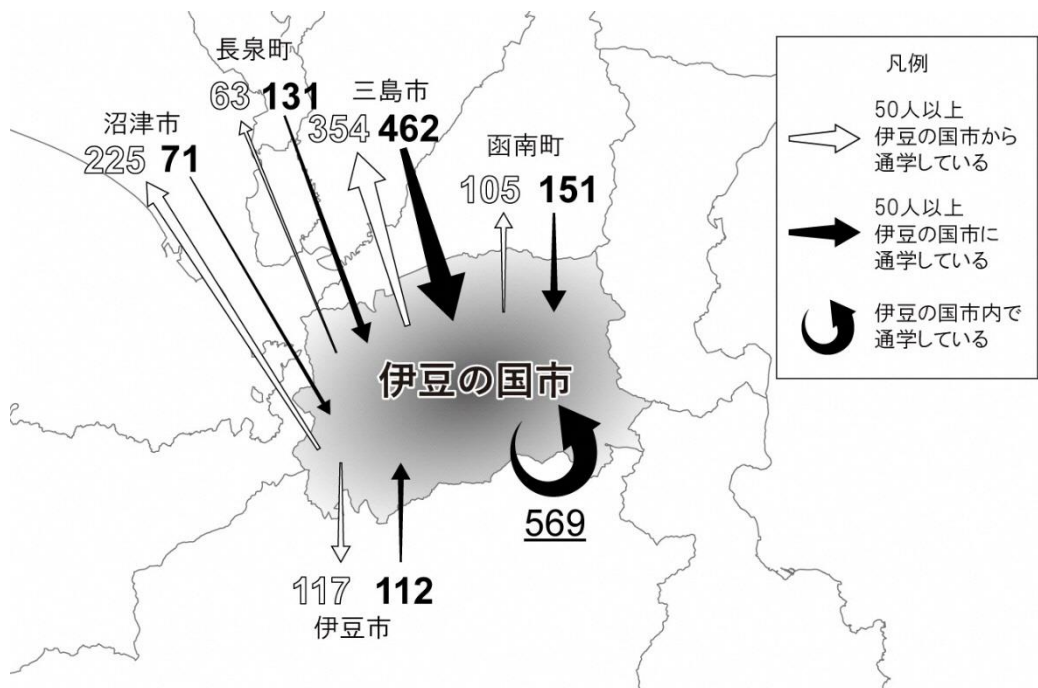
市民の通勤による移動は市内が約9千人、市外は三島市や沼津市は2千人を超えています。



出典:令和2年国勢調査(伊豆の国市との通勤者が1,000人以上となる市町のみ表記)

■通学移動特性

市民の通学による移動は市内が約550人、市外は三島市が最も多く約350人、次いで沼津市が約250人です。



出典:令和2年国勢調査(伊豆の国市との通学者が片方向100人以上となる市町のみ表記)

2-2 鉄道駅の1日平均乗降者数

伊豆箱根鉄道駿豆線の市内各駅の1日平均各駅乗降人員は以下のとおりです。令和4年度は、伊豆長岡駅が最も多く4,012人、原木駅が最も少なく563人となっています。令和2年度以降は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け輸送人員が減少しましたが、回復傾向にあります。

■市内鉄道駅の1日平均乗降者数の推移

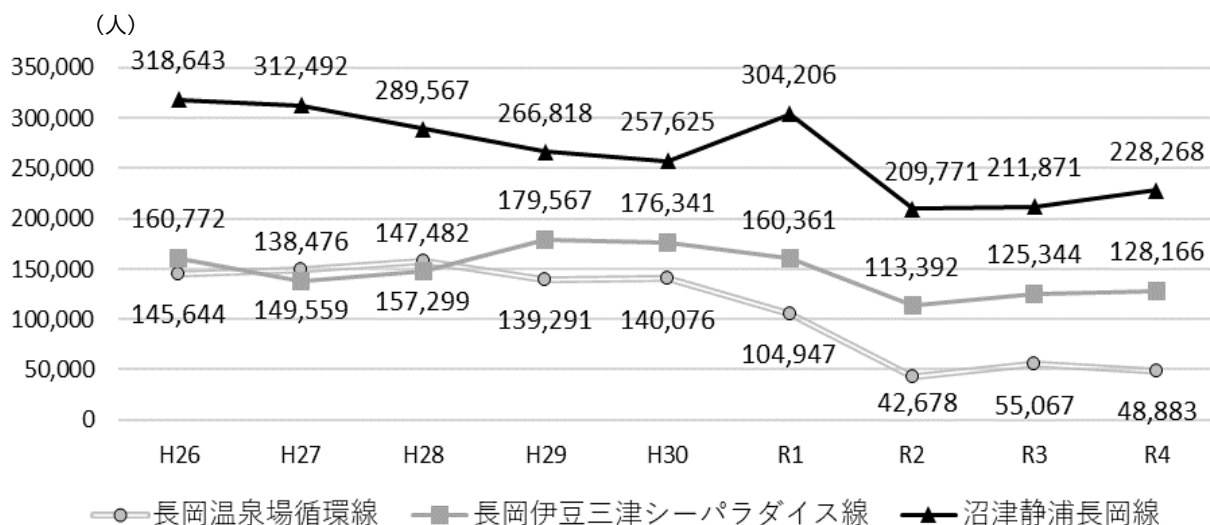


出典:伊豆箱根鉄道株式会社提供資料

2-3 民間路線バスの輸送人員

市内で運行されている民間路線バスは3路線あり、いずれも伊豆箱根バス株式会社が運行しています。輸送人員は沼津静浦長岡線が最も多く、長岡伊豆三津シーパラダイス線、長岡温泉場循環線の順となっています。令和2年度以降は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け輸送人員が減少しましたが、回復傾向にあります。

■民間路線バスの年度別輸送人員の推移



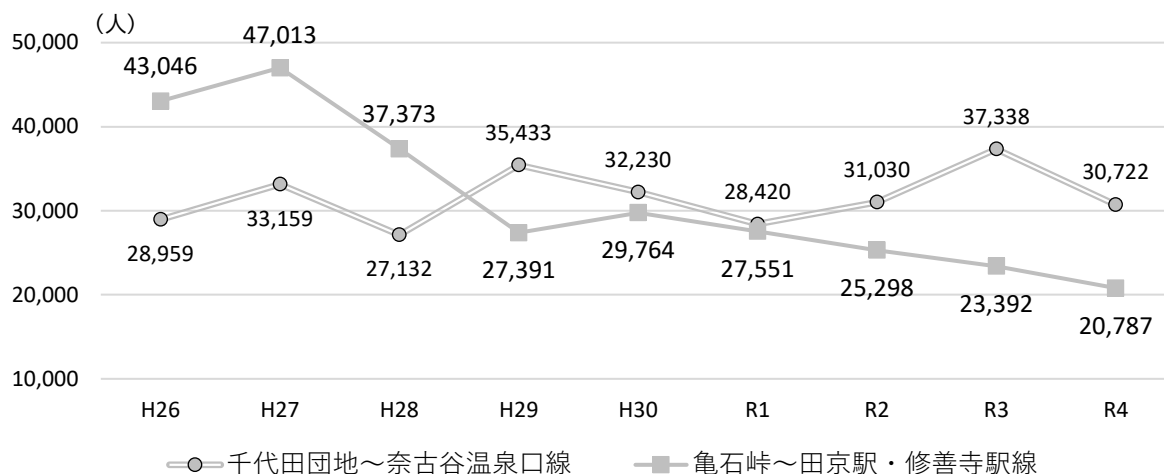
出典:伊豆箱根バス株式会社提供資料

2-4 自主運行バスの輸送人員

自主運行バスは、本市が運行主体となり、2路線（千代田団地～葦山駅～奈古谷温泉口線、亀石峠～田京駅・修善寺駅線）をバス事業者に委託して運行しています。

亀石峠～田京駅・修善寺駅線の輸送人員は、平成27年度以降減少していますが、千代田団地～葦山駅～奈古谷温泉口線は、増減を繰り返してやや増加しています。

■自主運行バスの年度別輸送人員の推移



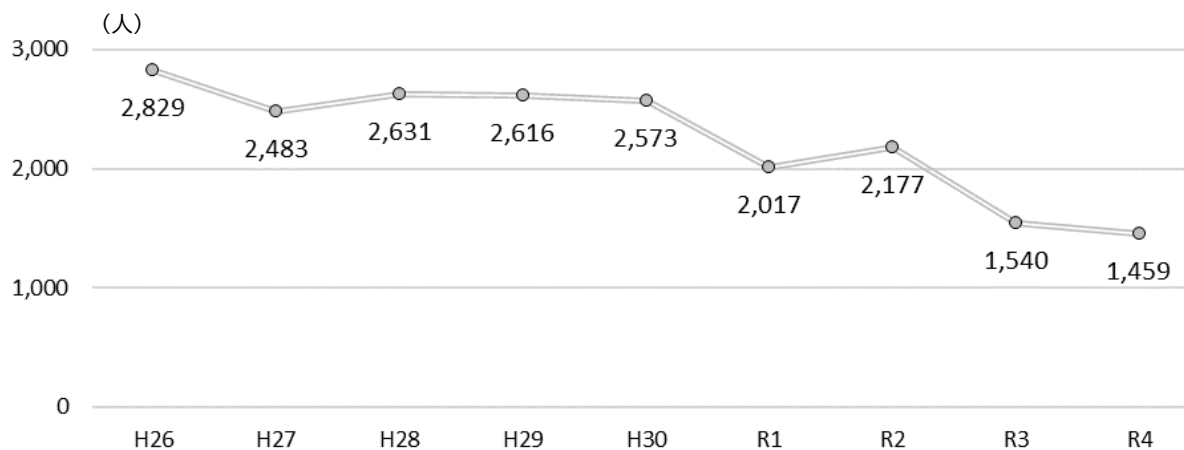
出典:市政報告書、市資料

2-5 生活支援バスの利用者数

生活支援バスは、田中山地区と大仁支所間を運行しています。本市から派遣依頼を受けたシルバー人材センターの運転手が、本市の所有する車両にて運行しています。

生活支援バスの利用者の多くは小中学生であり、児童・生徒の減少に伴い利用者数も減少しています。

■生活支援バスの年度別利用者数の推移



出典:市政報告書

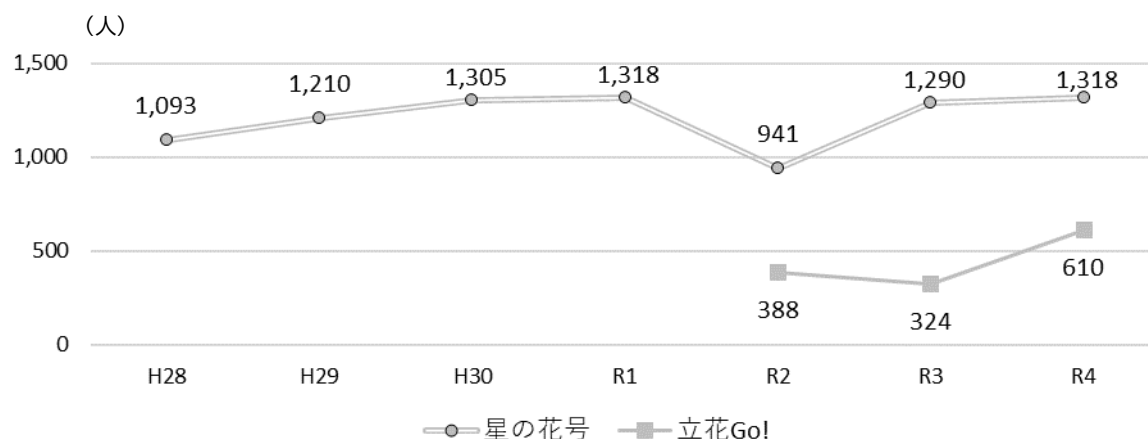
2-6 予約型乗合タクシーの利用者数

予約型乗合タクシーは、本市が運行主体となりタクシー事業者に運行を委託しています。立花台・星和地区と伊豆長岡駅を運行する星の花号は平成28年度から、立花地区と田京駅・伊豆保健医療センターを運行する立花Go!は令和2年度から本格運行しています。

星の花号の利用者数は、令和2年度に新型コロナウイルス感染症の影響を受けて利用者数が落ち込みましたが回復し、毎年度約1,300人が利用しています。

立花Go!の利用者数は、令和2～3年度に新型コロナウイルス感染症の影響を受けて300人台と低い水準でしたが、令和4年度は610人と利用者が増加しています。

■予約型乗合タクシーの年度別利用者数の推移

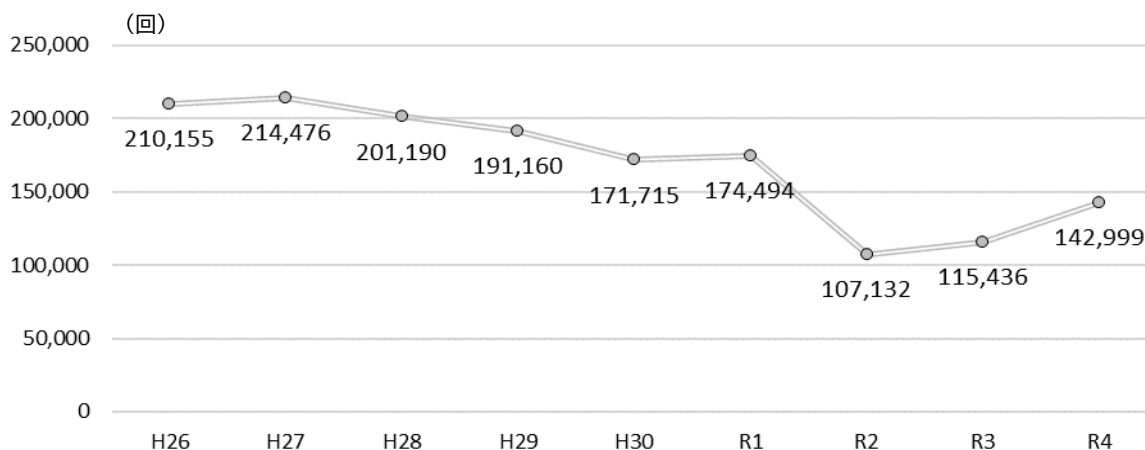


出典:市政報告書

2-7 一般乗用タクシーの輸送人員

一般乗用タクシーの営業所は、市内に伊豆箱根交通株式会社の長岡営業所があり、年間の営業回数は以下のとおりです。令和2年度に新型コロナウイルス感染症の影響を受けて利用者数が落ち込みましたが回復傾向にあります。

■タクシー年度別営業回の推移



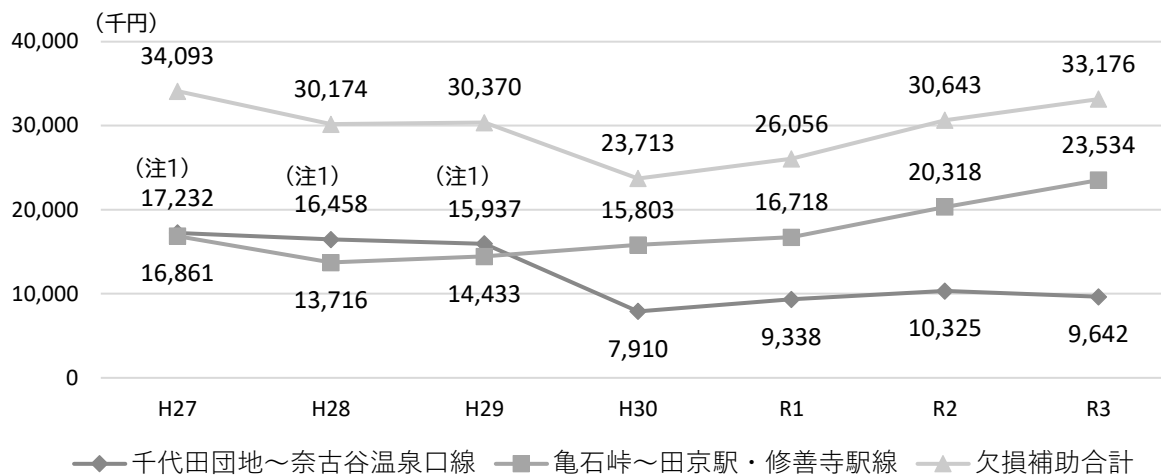
出典:伊豆箱根交通株式会社提供資料

2-8 公費負担

公共交通に関する公費負担は、自主運行バス、予約型乗合タクシーの欠損補助（運行経費から運賃等収入を差し引き、不足分を予算の範囲内で補填）と生活支援バスの事業費（運転手派遣に必要な事業費を市が負担、運賃無料、市所有車両にて運行）があります。

自主運行バスの欠損補助額は、平成30年度に行った路線統合のため減少しましたが、平成30年度以降は増加傾向にあります。

■自主運行バスの欠損補助額の推移

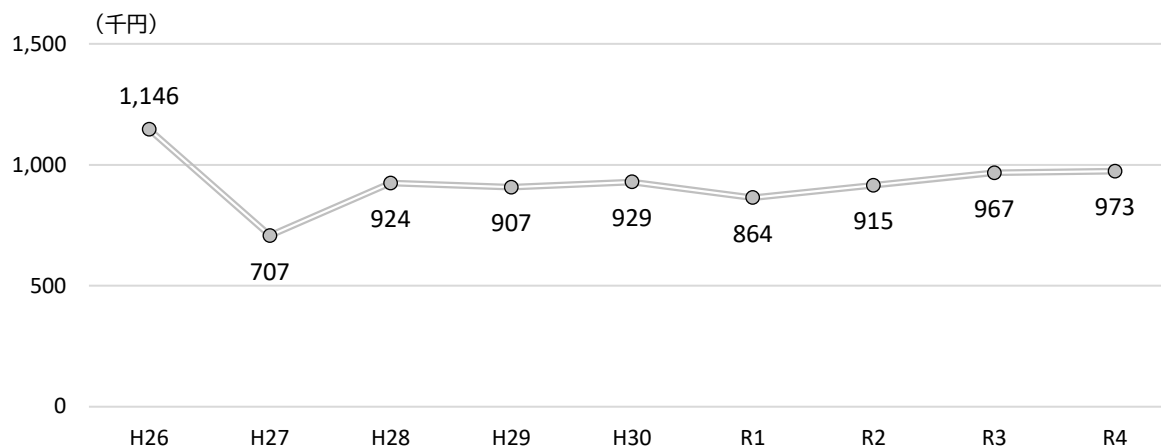


注1: 千代田団地～奈古谷温泉口線の H27～H29 の欠損補助額は、千代田団地～葦山駅線と葦山循環線の合算です。
注2: 自主運行バスの欠損補助は、運行経費、運賃等収入の実績に応じて翌年度精算し確定するため、資料編作成時の最新の欠損補助額は令和3年度分となります。

出典: 市政報告書、市資料

生活支援バスの事業費は、平成27年度以降1日当たり運行本数を3便から2便としたため、平成27年度に減少していますが、令和元年度以降は増加傾向にあります。

■生活支援バスの事業費(運転手派遣)の推移

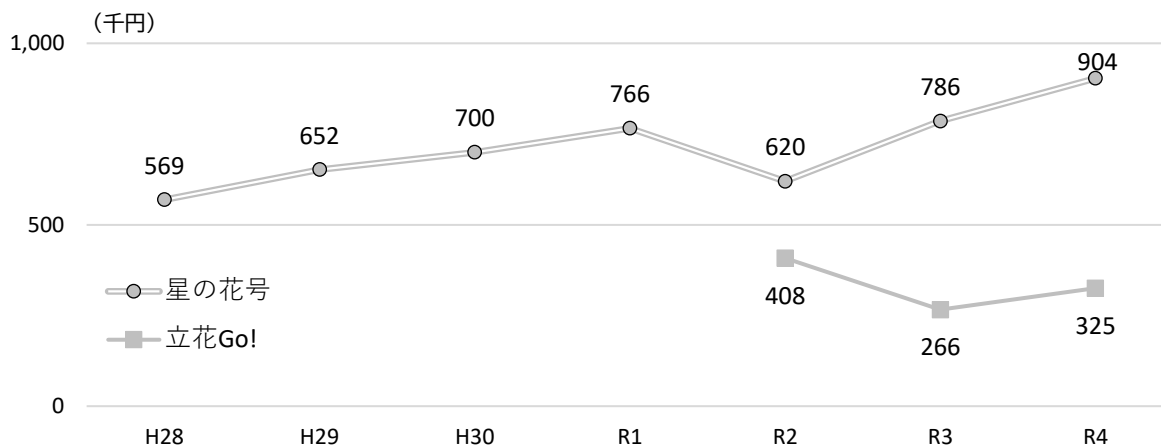


出典: 市政報告書

予約型乗合タクシー星の花号は平成28年5月から本格運行を開始しました。欠損補助額は、平成28年5月の本格運行以降、70万円程度で推移してきましたが、令和3年度以降は増加しています。

立花Go!は令和2年7月から本格運行を開始しました。欠損補助額は、令和3年度は稼働率が低下したため減少したものの、令和4年度は稼働率が回復したため増加しました。

■予約型乗合タクシーの欠損補助額の推移



出典:市政報告書

3. 交通事業者ヒアリング調査結果

地域公共交通計画策定のため、令和5年7月に市内に路線や営業区域を持つ全交通事業者にヒアリング調査を行いました。ヒアリング調査結果の概要は以下の通りです。

■鉄道事業者

- ・コロナ禍の令和5年度輸送人員はコロナ禍前の2018年度比約71.1%であった。
- ・直近の数値として令和4年度輸送人員は8,143千人でコロナ禍前の平成30年度比約83.1%である。
- ・通勤定期と通学定期の割合は令和4年度で55：45、定期と定期外の割合は61：39で定期旅客が多い状況。なお、コロナ禍の令和2年度では定期と定期外の割合は65：35であり、定期外が回復しつつある。
- ・乗務員はヒアリング時点で充足している。
- ・伊豆の国市内からの利用者から、大仁駅・田京駅・韮山駅・原木駅のバリアフリー化、上記各駅の老朽化したトイレの改修、放置自転車の撤去等の要望がある。

■バス事業者

- ・コロナ禍初年度の令和2年度は前年比で大幅な利用減となっていたが、年々、利用者は戻ってきている。
- ・朝晩は通勤通学・通院の利用があり、日中は引き続き通院や買い物などの利用や観光利用も見受けられる。また主に順天堂大学病院バス停での乗降が目立つ。
- ・乗務員が不足しており、貸切バス乗務員による運行や減便により対応している。
- ・乗務員の高齢化が進行しており、20代や30代が少ない。
- ・令和4年4月の自動車運転者の改善基準告示の改正に対応するためには、現行のダイヤでも乗務員が不足するため、始発便や終発便の時刻の見直しと運行本数の減便による対応が必要。

■タクシー事業者

- ・コロナ禍で利用者は30～35%減少したが、令和5年4月以降はコロナ禍前と比較して利用者は10%程度増加した。
- ・利用者の属性は、調査はしていないが買い物や病院利用の高齢者が多い。
- ・乗務員不足の深刻度は低いが、突発的な需要への対応には苦慮している。
- ・60歳以上の乗務員も多く、若年層の入社が少ないため、乗務員の高齢化は進行している。
- ・令和6年4月の自動車運転者の改善基準告示の改正には柔軟に対応していく。
- ・予約型乗合タクシーは、便数や行先等に関する要望を受けることがある。

4. 地区座談会の結果

3-1 開催の趣旨

市街地への移動に課題がある山間地域住民との意見交換を行うことで、地域公共交通や移動支援に対する住民ニーズを把握し、併せて自らの地域に合った公共交通のあり方や地域課題に対して主体的に取り組むきっかけの場とします。

また、令和5年策定予定の地域公共交通計画、福祉部局の高齢者福祉施策の在り方審議会や生活支援体制整備事業の検討時における基礎資料としてそれぞれの施策への活用も目的としました。

3-2 概要

- (1) 名 称 公共交通に係る地区座談会
- (2) 対 象 市内52区のうち、実施を希望する地区
・令和4年11月7日開催区長会全体会で通知及び募集
- (3) 時 期 令和4年12月～令和5年2月
- (4) 内 容
・地区の現状（人口や高齢化率の推移、現状の交通手段等）
・市事業や取組の報告
・地区に合った交通システムの検討など
- (5) 連 携 課 長寿介護課、福祉こども相談センター

3-3 実施結果の一覧

延べ8地区（7箇所）79人

日時	地区	会場	参加人数等
令和4年12月13日(火) 10:20～11:40	みどり区・ 小松ヶ原区	エメラルドタウン 管理組合	7人 (区長、管理組合員ほか)
令和4年12月18日(日) 19:20～19:40	田中山区	田中山公民館	7人 (区長、区役員)
令和4年12月21日(水) 19:00～20:00	浮橋区	浮橋公民館	12人 (区役員、子供会、女性の会ほか)
令和5年1月21日(日) 18:00～18:50	長者原区	長者原公民館	8人 (区長、区役員、シニアクラブほか)
令和5年1月28日(土) 19:00～19:20	田原野区	いこいの家	9人 (区長、区役員、区建設委員ほか)
令和5年2月2日(木) 10:00～11:20	千代田区	千代田公民館	17人 (区役員、一般区民)
令和5年2月18日(土) 19:00～19:20	奈古谷区	生涯学習センター	19人 (区長、区役員、組長)

3-4 地区座談会の意見まとめ

(1) 現状の捉え方／交通手段がなくて困っているという実際の声があるか

- ・「まだ自力で運転ができて」「免許返納はしてない人が多い」「困っているという声はあまり聞かない」との声が多い。
- ・「交通手段がない人は家族や近所の人に送ってもらっている」という声があり、自助や共助による支え合いで担っている部分もあると推察できる。
- ・一方で「5年後、10年後に運転できなくなるかもしれない」という声もあり、不安や危機感を持つ区民も一定数いる。

(2) 行政に期待すること／現行事業の改善要望

- ・特に葦山の山間地域では、地域をまとめて考えてもよいのではないか。その取りまとめ役を行政が担ってもらえればありがたい。(広域実施の場合の舵取り)
- ・新たな交通システムの導入を検討する場合、その内容や仕組みは知りたい。情報提供してほしい。(座談会の継続的な実施)
- ・スクールバスなど子どもの通学の足は確保してもらいたい。また、小中学生にある通学支援を高校生まで拡大してもらいたい。(児童～高校生の通学支援)
- ・タクシー券について、山間地域は1万円では足りない。住む地区での不平等さを解消してほしい。交付年齢等も再考してもらいたい。(タクシー券の制度見直し)

(3) その他意見

① ボランティア移送

- ・空いている自家用車を使って柔軟にボランティア移送などができないか。福祉運送の許可が必要だとは思いますが、動ける人を上手に活用していただければいい。誰かが全責任を持ってコントロールすることは難しい。最低限の自助的な要素がないと話が進まないのではないか。

② 住民意識の向上

- ・バスを継続するためには、区民を相応の負担をする必要があると思う。
- ・地域住民にも自らが動く意識がないと今後非常に厳しいと思う。どの地域でも行政におんぶに抱っこを期待しているだけではだめ。動ける人が動く必要がある。

③ 民間事業者の活用

- ・新たに介護タクシーができた地区もある。タクシー券も使用できるのもメリット。バスだけではなく、こういった福祉タクシーなど様々な事業者が増えるとよい。

3-5 今後の対応

市内公共交通の現状や自主運行バスの市負担額などの理解を求めつつ、地域に合った交通システムについて座談会の継続的な実施を提案したところ、全ての地区で前向きな回答であった。よって次年度以降も開催を予定し、引き続き地域ニーズの把握に努め、ミスマッチのない交通システムの導入を目指していく。

5. 市民アンケート調査結果

4-1 調査の概要

(1) 調査の目的

市民の外出等の実態や公共交通の利用状況などを把握し、地域公共交通計画の基礎資料とするため。

(2) 調査の概要

■調査対象地域	伊豆の国市全域
■調査対象者	伊豆の国市在住の1,000人
■調査対象	16歳以上90歳未満より無作為抽出
■調査期間	令和5年6月14日(水)～令和5年6月30日(金)
■調査方法	郵送による配布・回収
■配布数	1,000件
■回収数	回収数 435件(回収率 43.5%)

(3) 調査結果の見方

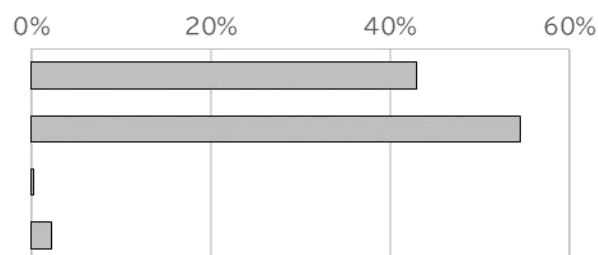
- ①比率はすべてパーセント表示とし、小数点第2位で四捨五入しているため、パーセントの合計が100.0%にならない場合があります。
- ②母数となるべき実数は、回答者数として示しています。複数回答が可能な設間についても、比率算出の母数は回答者数とし、それぞれの選択肢の支持率を算出しています。そのため、複数回答が可能な設間は、回答総数が回答者数を上回り、パーセントの合計は、100.0%を超える値となっています。
また、別途表記があるものについては、無回答をサンプル数から除いた値を基数としています。
- ③表中の「n」は、設間の回答対象となる人数を表しています。
- ④本調査における山間地区は、高原区、小松ヶ原区、長者原区、田原野区、浮橋区、下畑区、田中山区とします。

5-2 調査の結果

(1)回答者属性

A-1 回答者の性別

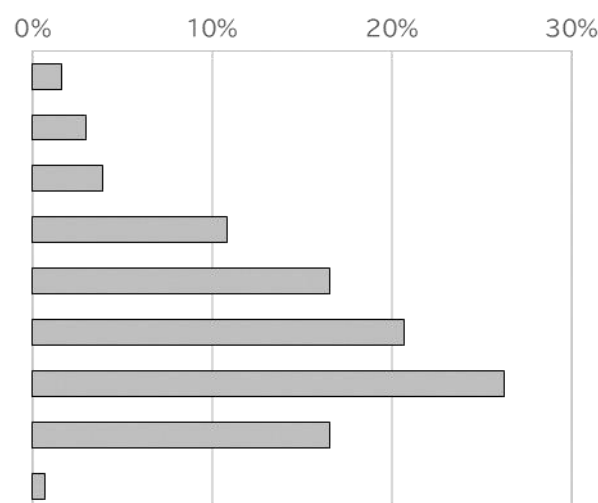
項目(n=435)	件数	比率
男性	187	43.0%
女性	237	54.5%
答えたくない	1	0.2%
無回答	10	2.3%
計	435	100.0%



○「男性」が43.0%、「女性」が54.5%となっています。

A-2 回答者の年齢

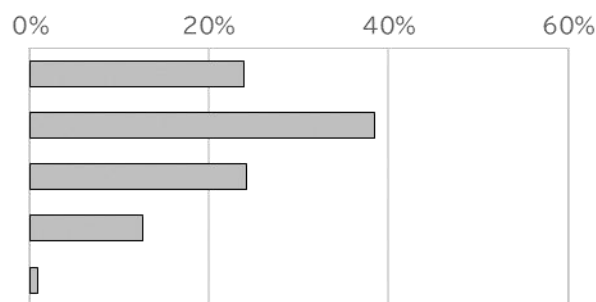
項目(n=435)	件数	比率
10歳代	7	1.6%
20歳代	13	3.0%
30歳代	17	3.9%
40歳代	47	10.8%
50歳代	72	16.6%
60歳代	90	20.7%
70歳代	114	26.2%
80代以上	72	16.6%
無回答	3	0.7%
計	435	100.0%



○「70歳代」が26.2%と最も多く、次いで「60歳代」20.7%、「50歳代」16.6%、「80代以上」16.6%となっています。

A-3 居住地区

項目(n=435)	件数	比率
長岡地区	104	23.9%
葦山地区	167	38.4%
大仁地区	105	24.1%
山間地区	55	12.6%
無回答	4	0.9%
計	435	100.0%

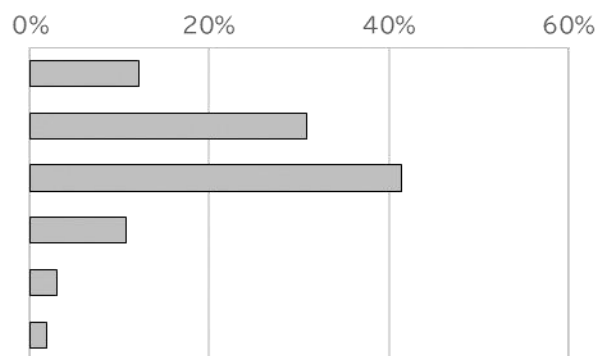


※本調査における山間地区は、10ページを参照

○「葦山地区」が最も多く 38.4%、次いで「大仁地区」が 24.1%、「長岡地区」が 23.9%となっています。

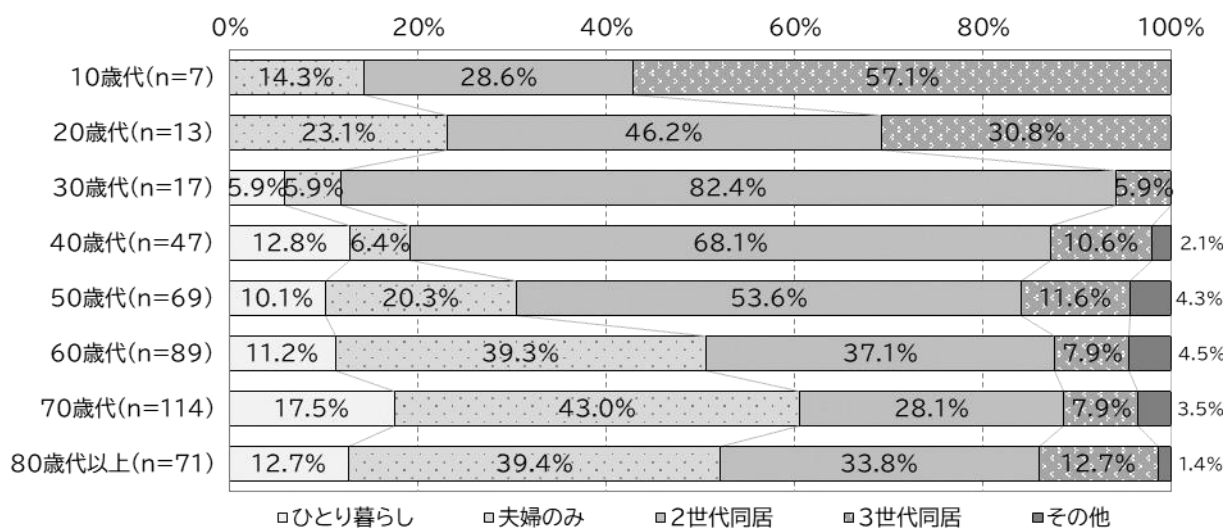
A-4 家族構成

項目(n=435)	件数	比率
ひとり暮らし	53	12.2%
夫婦のみ	134	30.8%
2世代同居	180	41.4%
3世代同居	47	10.8%
その他	13	3.0%
無回答	8	1.8%
計	435	100.0%



※その他: 夫妻長男、妹一人、夫婦・実姉、子(県外在)、姉・弟、夫婦と妻の母、無回答(7)

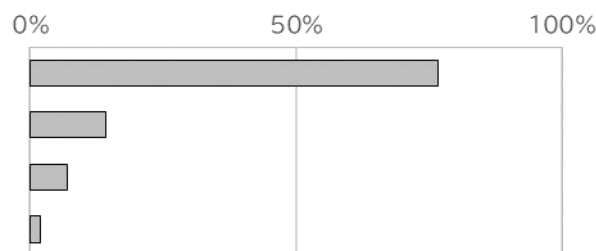
○「2世代同居」が 41.4%と最も多く、次いで「夫婦のみ」30.8%、「ひとり暮らし」12.2%となっています。



○「2世代同居」は 30歳代が最も多く 82.4%、「3世代同居」は 10歳代が最も多く 57.1%、「ひとり暮らし」は 30歳代以上で各年代約 10%となっています。

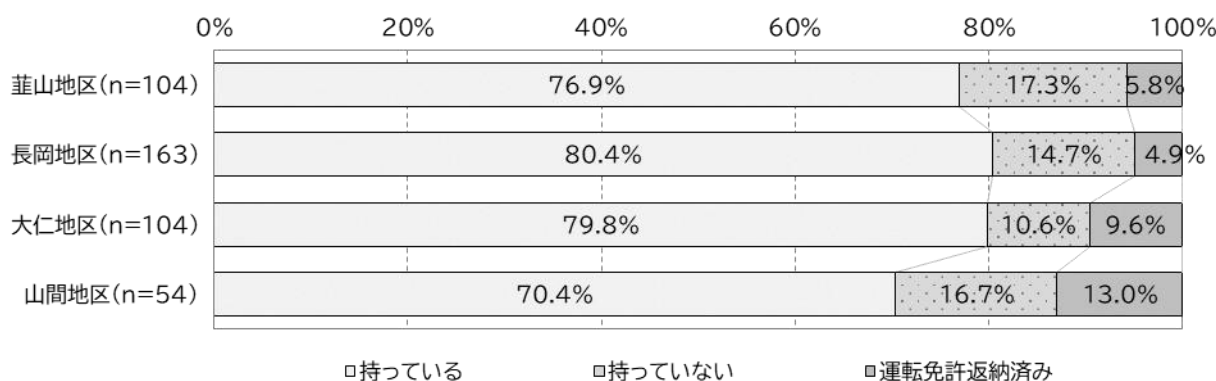
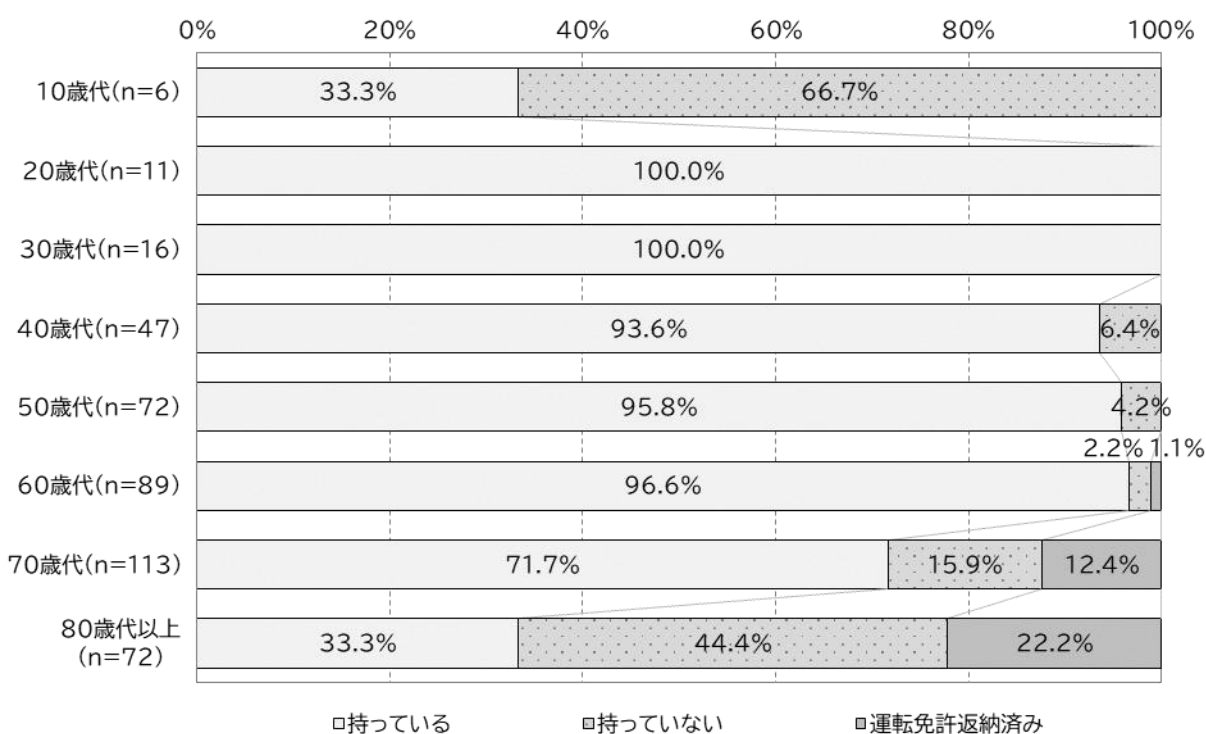
A-5 運転免許の所有

項目(n=435)	件数	比率
持っている	333	76.6%
持っていない	62	14.3%
運転免許返納済み	31	7.1%
無回答	9	2.1%
計	435	100.0%



○「持っている」が最も多く 76.6%、次いで「持っていない」が 14.3%となっています。

○「運転免許返納済み」は 7.1%でした。

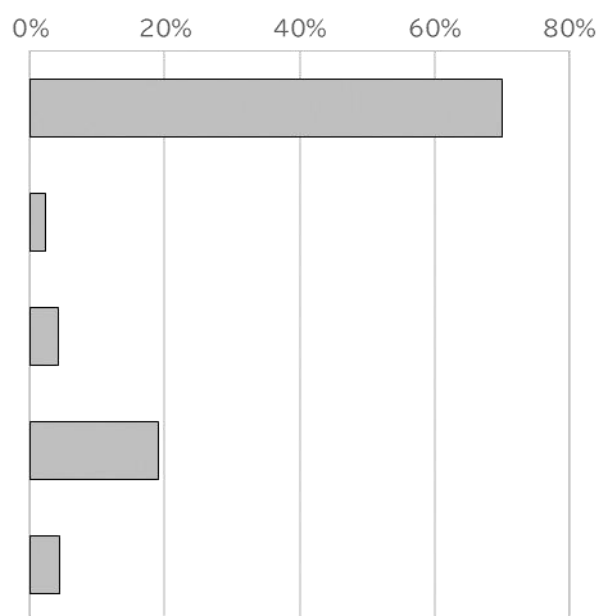


○年代別では、20歳代～60歳代は約9割が運転免許を持っており、70歳代や80歳代以上になると免許返納者が増加しています。

○地区別では、運転免許の所有について顕著な差は見られませんでした。

A-6 自家用車・バイクの所有

項目(n=435)	件数	比率
自家用車・バイクを持っていて、運転している	305	70.1%
自家用車・バイクを持っているが、今は運転していない	10	2.3%
自家用車・バイクは持っていないが、家族で共有し運転している	18	4.1%
自家用車・バイクを持っておらず、運転もしていない	83	19.1%
無回答	19	4.4%
計	435	100.0%

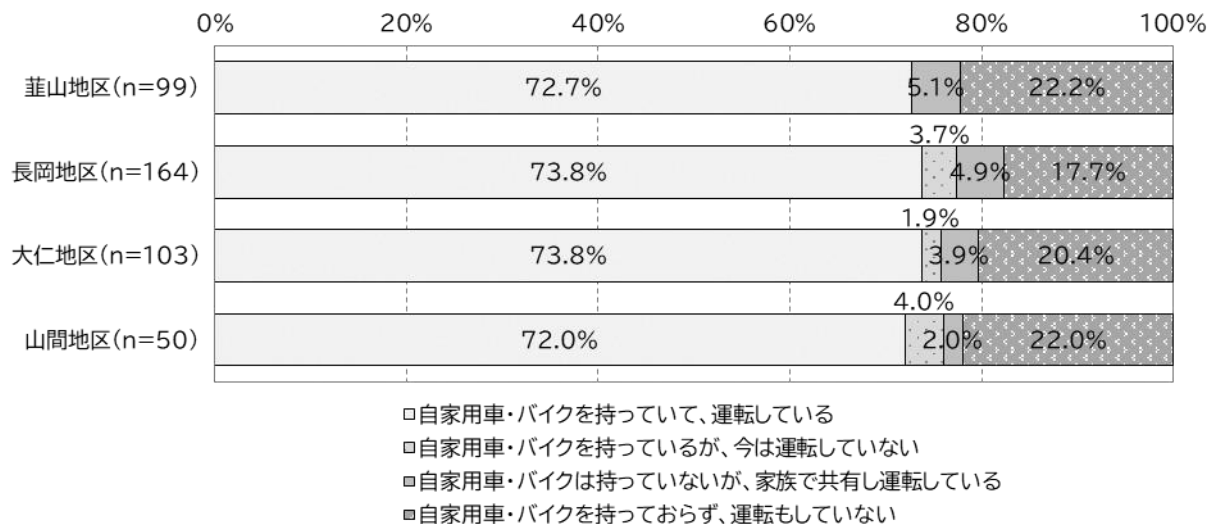


○「自家用車・バイクを持っていて、運転している」が70.1%と最も多く、次いで「自家用車・バイクを持っておらず、運転もしていない」が19.1%となっています。



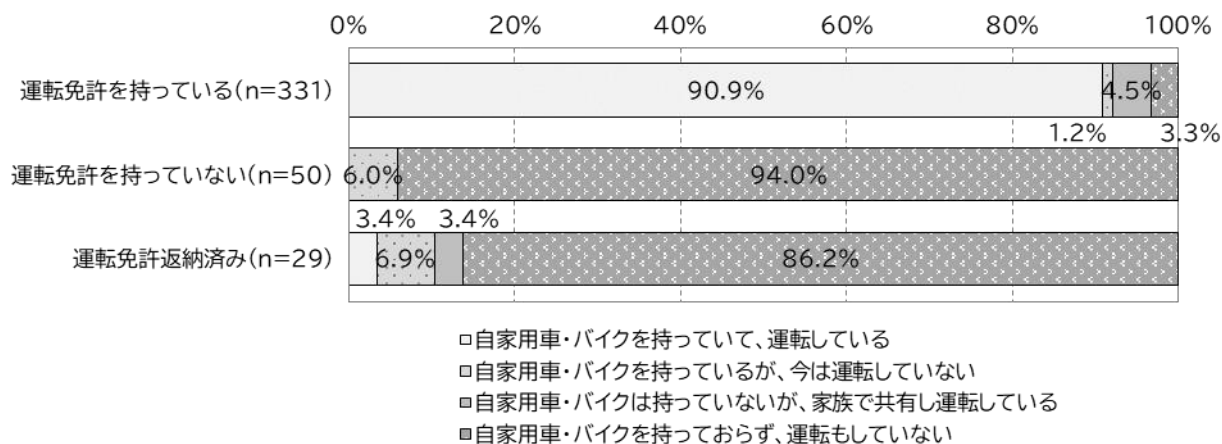
- 自家用車・バイクを持っていて、運転している
- 自家用車・バイクを持っているが、今は運転していない
- 自家用車・バイクは持っていないが、家族で共有し運転している
- 自家用車・バイクを持っておらず、運転もしていない

○年代別では、20歳代～60歳代は約7～8割が自家用車等を持っていて運転しているものの、70歳代になると約25%が自家用車等を所有せず、80歳代以上になると約6割が自家用車等を所有していません。



※本調査における山間地区は、10 ページを参照

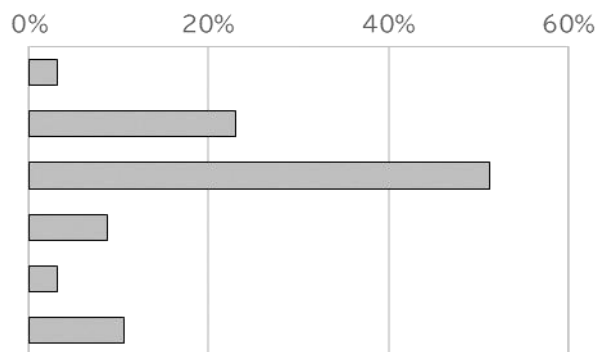
○地区別では、自家用車・バイクの所有について差は見られませんでした。



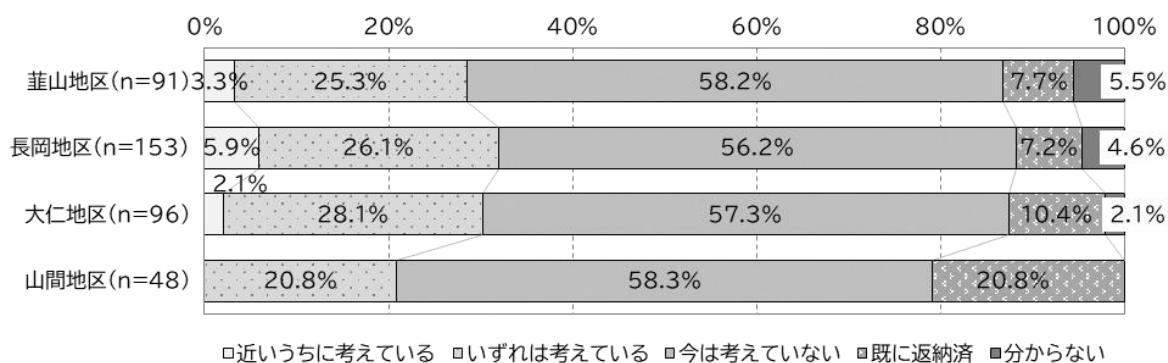
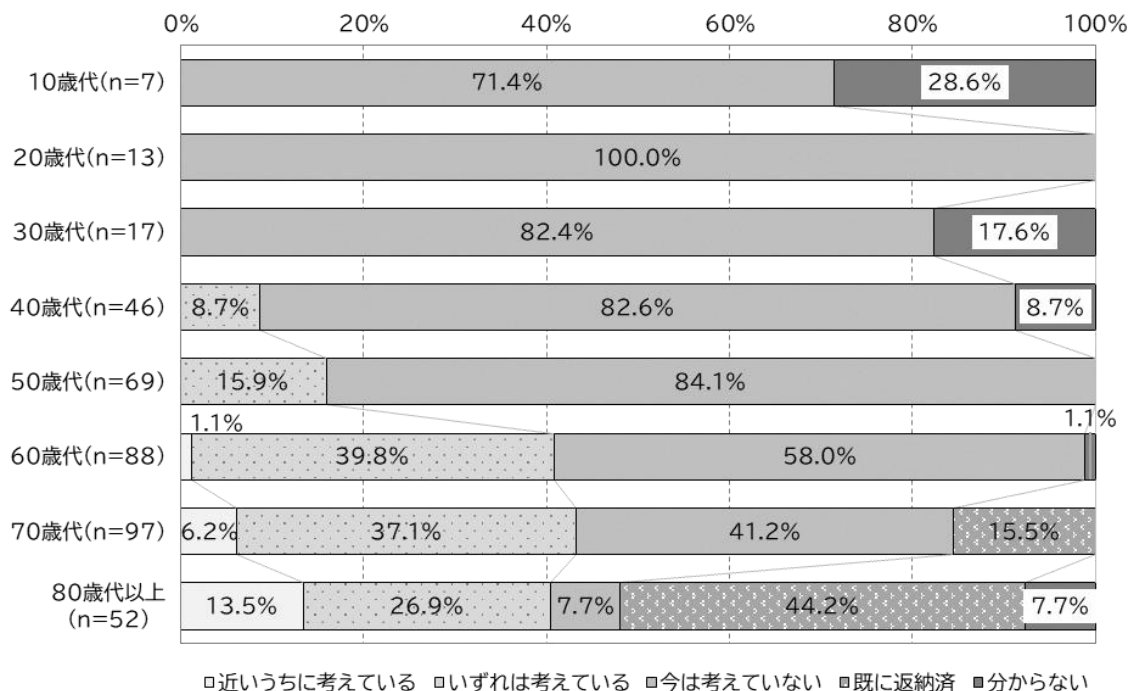
○運転免許を持っている人の約9割は、自家用車等を所有しています。

A-7 免許返納

項目(n=435)	件数	比率
近いうちに考えている	14	3.2%
いずれは考えている	100	23.0%
今は考えていない	223	51.3%
既に返納済み	38	8.7%
分からない	14	3.2%
無回答	46	10.6%
計	435	100.0%



○「今は考えていない」が最も多く 51.3%、次いで「いずれは考えている」が 23.0%となっています。



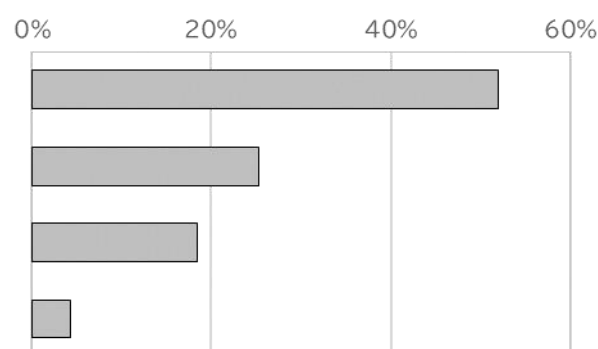
※本調査における山間地区は、10 ページを参照

○免許返納者は 70 歳代で約 15%、80 歳代で約 4 割となっています。

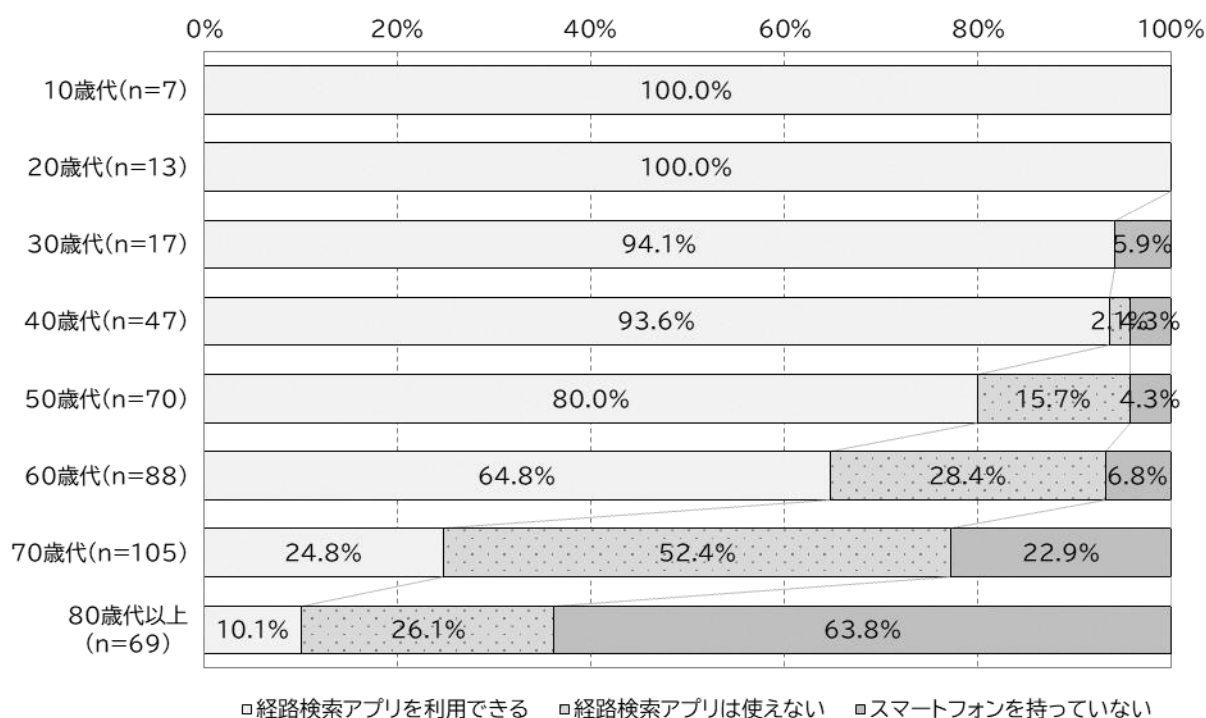
○地区別では、山間地区の免許返納が約 2 割、その他の地区は約 1 割となっています。

A-8 スマートフォンの経路検索アプリの利用

項目(n=435)	件数	比率
経路検索アプリを利用できる	226	52.0%
経路検索アプリは使えない	110	25.3%
スマートフォンを持っていない	80	18.4%
無回答	19	4.4%
計	435	100.0%

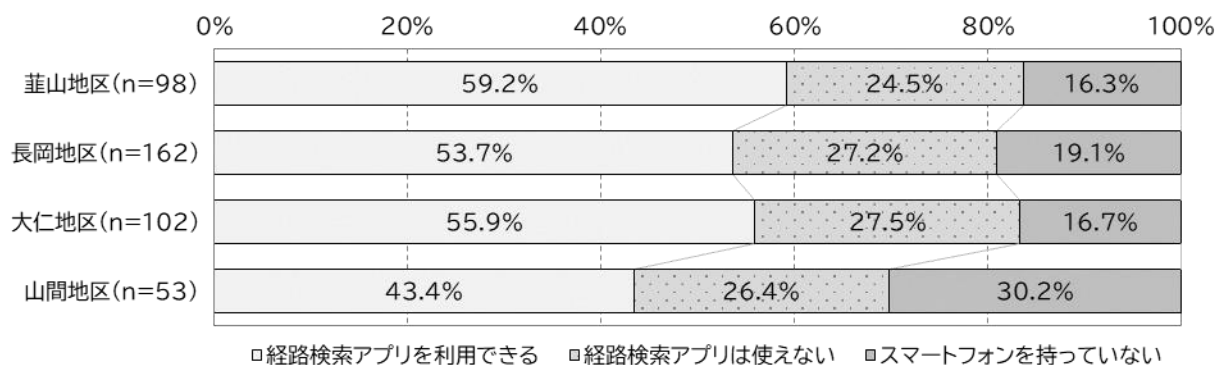


○「経路検索アプリが利用できる」が52.0%と最も多く、次いで「経路検索アプリは使えない」25.3%、「スマートフォンを持っていない」18.4%となっています。



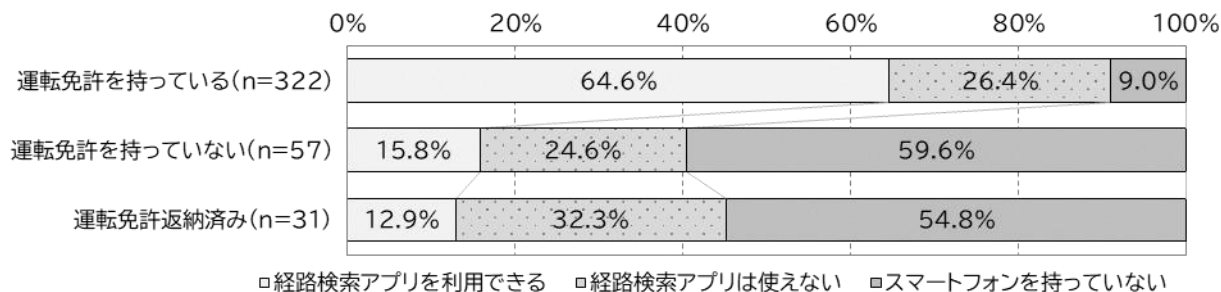
○年代別では、40歳代までは約9～10割が経路検索アプリを利用できるものの、50歳代以降は減少し、70歳代は約25%、80歳代は約1割が利用できます。

資料2 現況調査結果



※本調査における山間地区は、10 ページを参照

○地区別では、山間地区は約3割がスマートフォンを持っておらず、経路検索アプリが利用できるのは約4割となっています。

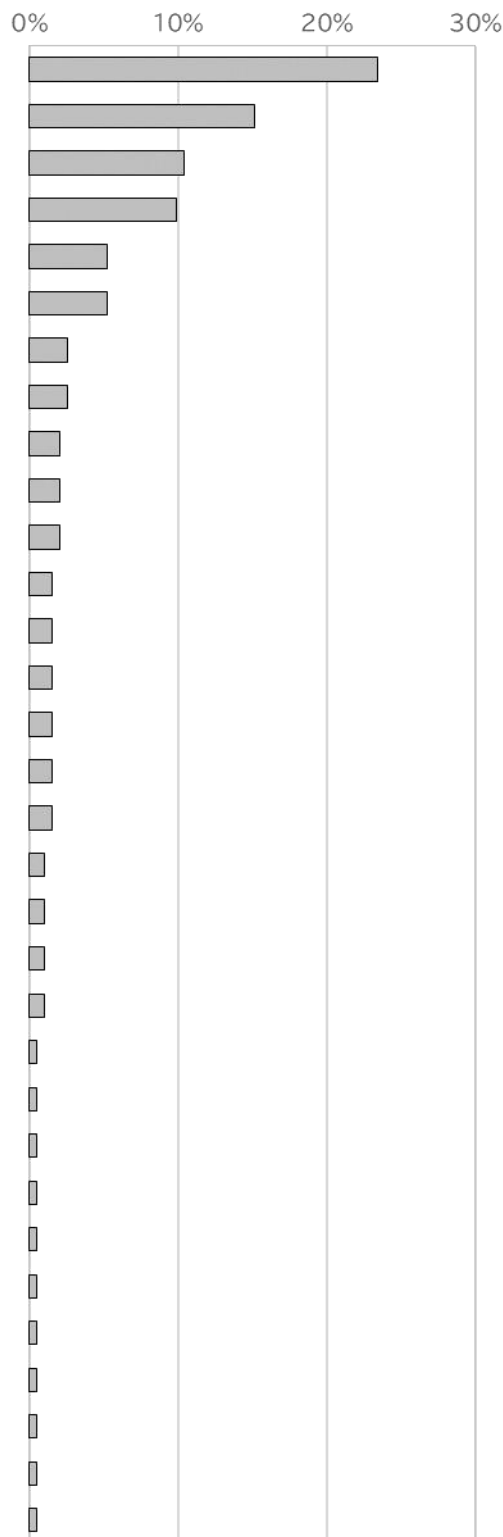


○運転免許返納者の約9割はスマートフォンを持っていないか、スマートフォンを持っていても経路検索アプリを使うことができません。

(2)日常の外出傾向

B-1 通勤通学

項目(n=192)	件数	比率
伊豆の国市(町丁目記載なし)	45	23.4%
三島市	29	15.1%
伊豆市	20	10.4%
沼津市	19	9.9%
伊豆の国市 長岡	10	5.2%
函南町	10	5.2%
伊豆の国市 奈古谷	5	2.6%
清水町	5	2.6%
長泉町	4	2.1%
伊豆の国市 田京	4	2.1%
神奈川県	4	2.1%
伊豆の国市 四日町	3	1.6%
県内(複数市町回答)	3	1.6%
伊豆の国市 南條	3	1.6%
富士市	3	1.6%
裾野市	3	1.6%
伊豆の国市 古奈	3	1.6%
伊豆の国市 北江間	2	1.0%
伊豆の国市 寺家	2	1.0%
伊豆の国市 大仁	2	1.0%
御殿場市	2	1.0%
小山町	1	0.5%
伊豆の国市 浮橋	1	0.5%
静岡市	1	0.5%
伊豆の国市 原木	1	0.5%
伊豆の国市 三福	1	0.5%
東京都	1	0.5%
伊豆の国市 中條	1	0.5%
伊豆の国市 下畑	1	0.5%
伊豆の国市 中	1	0.5%
伊東市	1	0.5%
伊豆の国市 南江間	1	0.5%

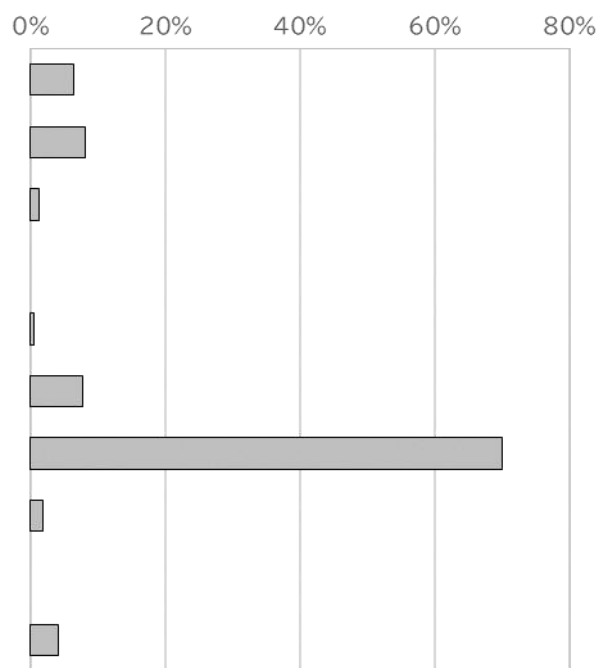


※無回答、行先不明を除く

○「伊豆の国市（町丁目記載なし）」が23.4%、「三島市」が15.1%となっています。

通勤通学の移動手段

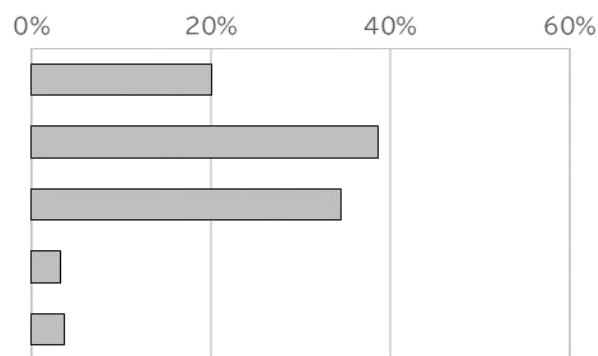
項目(n=220)	件数	比率
徒歩	14	6.4%
自転車	18	8.2%
バイク	3	1.4%
路線バス	0	0.0%
タクシー	1	0.5%
鉄道	17	7.7%
自家用車	154	70.0%
家族の送迎	4	1.8%
その他	0	0.0%
無回答	9	4.1%
計	220	100.0%



○「自家用車」が70.0%、「自転車」が8.2%となっています。

通勤通学の頻度

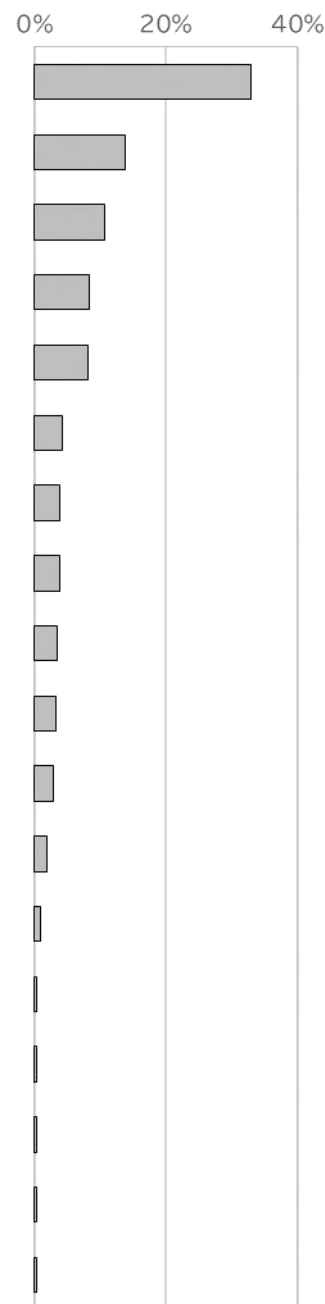
項目(n=220)	件数	比率
毎日	44	20.0%
平日ほぼ毎日	85	38.6%
週数回	76	34.5%
月数回	7	3.2%
無回答	8	3.6%
計	220	100.0%



○「平日ほぼ毎日」が38.6%、「週数回」が34.5%となっています。

B-2 買物

項目(n=310)	施設名(抜粋)	件数	比率
伊豆の国市 (町丁目記載なし)	—	102	32.9%
伊豆の国市 吉田	アピタ大仁店	43	13.9%
函南町	フードストアあおき エブリィビッグデー	33	10.6%
伊豆の国市 古奈	マックスバリュ 伊豆長岡店	26	8.4%
伊豆の国市 寺家	エスポット萑山店	25	8.1%
伊豆の国市 四日町	ラコアンドエース 伊豆長岡店	13	4.2%
伊豆市	マックスバリュ カインズ	12	3.9%
伊豆の国市 田京	マックスバリュ ハンディ	12	3.9%
県内(複数市町回答)	—	11	3.5%
三島市	イトーヨーカドー スーパーカドイケ	10	3.2%
清水町	サントムーン柿田川 食遊市場	9	2.9%
沼津市	スーパー田子重 ららぽーと沼津	6	1.9%
伊豆の国市 長岡	魚屋	3	1.0%
伊豆の国市 御門	セブンイレブン	1	0.3%
伊豆の国市 南條	—	1	0.3%
伊東市	ナガヤ	1	0.3%
伊豆の国市 田原野	—	1	0.3%
伊豆の国市 萑山山木	—	1	0.3%

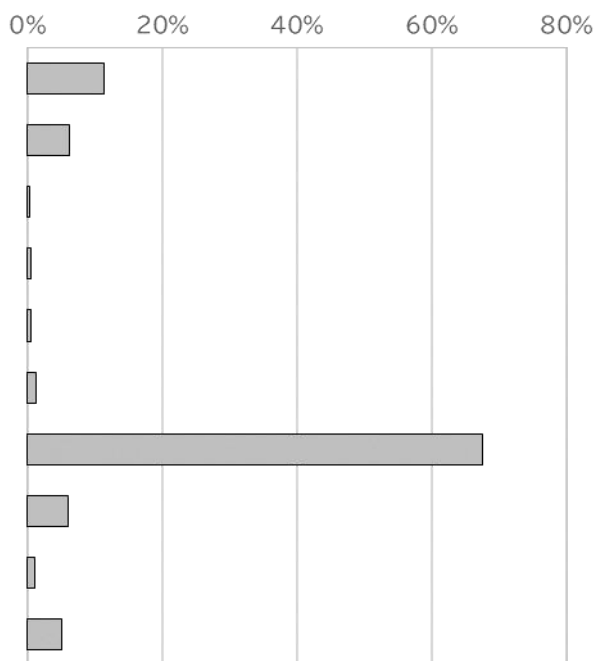


※無回答、行先不明を除く

○「伊豆の国市 (町丁目記載なし)」が 32.9%、「伊豆の国市吉田 (アピタ大仁店)」が 13.9%となっています。

買物の移動手段

項目(n=369)	件数	比率
徒歩	42	11.4%
自転車	23	6.2%
バイク	1	0.3%
路線バス	2	0.5%
タクシー	2	0.5%
鉄道	5	1.4%
自家用車	249	67.5%
家族の送迎	22	6.0%
その他	4	1.1%
無回答	19	5.1%
計	369	100.0%

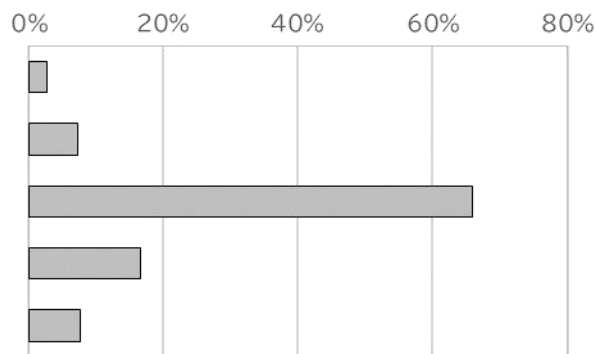


※その他:近くに住む長男(の送迎)、シニアカー、エメラルドタウンバス、無回答(1)

○「自家用車」が67.5%、「徒歩」が11.4%となっています。

買物の頻度

項目(n=369)	件数	比率
毎日	10	2.7%
平日ほぼ毎日	27	7.3%
週数回	243	65.9%
月数回	61	16.5%
無回答	28	7.6%
計	369	100.0%



○「週数回」が65.9%、「月数回」が16.5%となっています。

B-3 通院

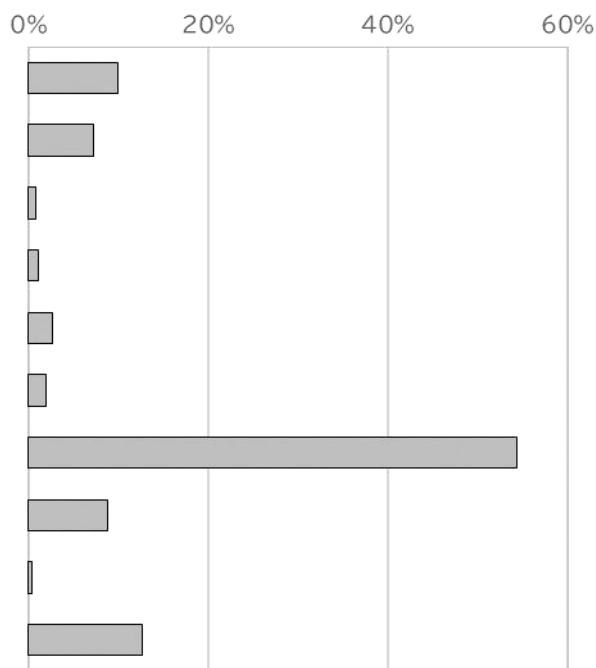
項目(n=225)	施設名(抜粋)	件数	比率	0%	20%	40%
伊豆の国市 (町丁目記載なし)	—	46	20.4%			
伊豆の国市 長岡	順天堂大学医学部 付属静岡病院	42	18.7%			
伊豆の国市 田京	伊豆保健医療センター	24	10.7%			
函南町	小谷いずみクリニック	16	7.1%			
県内(複数市町回答)	—	13	5.8%			
伊豆の国市 吉田	村田内科クリニック	12	5.3%			
三島市	三島総合病院	12	5.3%			
伊豆市	伊豆赤十字病院	10	4.4%			
伊豆の国市 四日町	恵泉クリニック くきの皮膚科	10	4.4%			
伊豆の国市 南條	杉本医院	7	3.1%			
伊豆の国市 南江間	江間クリニック	5	2.2%			
伊豆の国市 大仁	大仁医院西脇内科	5	2.2%			
沼津市	芹沢眼科	5	2.2%			
伊豆の国市 奈古谷	花の丘診療所	3	1.3%			
伊豆の国市 寺家	伊豆医療福祉センター	2	0.9%			
東京都	慶応病院	2	0.9%			
伊豆の国市 古奈	伊豆長岡第一 クリニック	2	0.9%			
長泉町	静岡がんセンター	1	0.4%			
静岡市	静岡県立こども病院	1	0.4%			
伊豆の国市 原木	ゆりのきクリニック	1	0.4%			
伊豆の国市 北江間	—	1	0.4%			
伊豆の国市 三福	みふく整骨院	1	0.4%			
伊豆の国市 中條	葦山温泉病院	1	0.4%			
御殿場市	フジ虎ノ門病院	1	0.4%			
伊豆の国市 御門	西島歯科クリニック	1	0.4%			
清水町	静岡医療センター	1	0.4%			

※無回答、行先不明を除く

○「伊豆の国市 (町丁目記載なし)」が 20.4%、「伊豆の国市長岡 (順天堂大学医学部付属静岡病院など)」が 18.7%となっています。

通院の移動手段

項目(n=261)	件数	比率
徒歩	26	10.0%
自転車	19	7.3%
バイク	2	0.8%
路線バス	3	1.1%
タクシー	7	2.7%
鉄道	5	1.9%
自家用車	142	54.4%
家族の送迎	23	8.8%
その他	1	0.4%
無回答	33	12.6%
計	261	100.0%

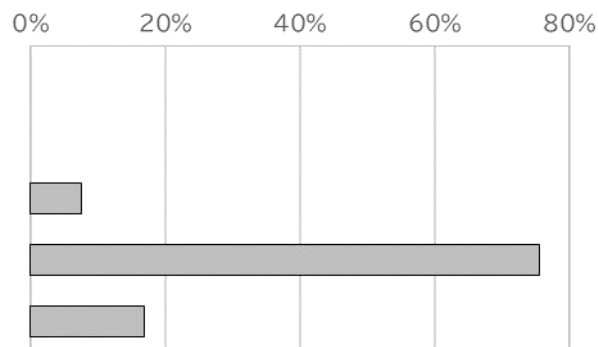


※その他:無回答(1)

○「自家用車」が54.4%、「徒歩」が10.0%、「家族の送迎」が8.8%となっています。

通院の頻度

項目(n=261)	件数	比率
毎日	0	0.0%
平日ほぼ毎日	0	0.0%
週数回	20	7.7%
月数回	197	75.5%
無回答	44	16.9%
計	261	100.0%



○「月数回」が75.5%、「週数回」が7.7%となっています。

B-4 その他の外出

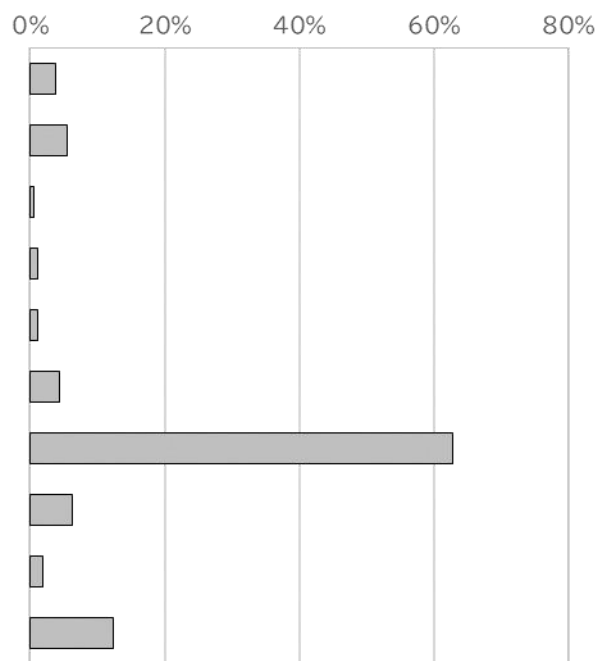
項目(n=121)	施設名(抜粋)	件数	比率	0%	10%	20%
伊豆の国市 (町丁目記載なし)	—	20	16.5%	[Bar chart showing 16.5%]		
三島市	三島駅	17	14.0%	[Bar chart showing 14.0%]		
沼津市	ららぽーと沼津	16	13.2%	[Bar chart showing 13.2%]		
伊豆市	百笑の湯	14	11.6%	[Bar chart showing 11.6%]		
函南町	ダイヤモンド	10	8.3%	[Bar chart showing 8.3%]		
県内(複数市町回答)	—	9	7.4%	[Bar chart showing 7.4%]		
清水町	サントムーン柿田川	8	6.6%	[Bar chart showing 6.6%]		
伊豆の国市 吉田	アピタ大仁店	4	3.3%	[Bar chart showing 3.3%]		
伊豆の国市 中條	葦山温泉病院	2	1.7%	[Bar chart showing 1.7%]		
伊豆の国市 天野	狩野川リバーサイド パーク	2	1.7%	[Bar chart showing 1.7%]		
伊豆の国市 三福	大仁体育館	2	1.7%	[Bar chart showing 1.7%]		
伊東市	ドン・キホーテ	2	1.7%	[Bar chart showing 1.7%]		
伊豆の国市 長岡	長岡温泉プール	2	1.7%	[Bar chart showing 1.7%]		
神奈川県	—	2	1.7%	[Bar chart showing 1.7%]		
静岡市	—	1	0.8%	[Bar chart showing 0.8%]		
伊豆の国市 葦山山木	出荷場	1	0.8%	[Bar chart showing 0.8%]		
長泉町	静岡がんセンター	1	0.8%	[Bar chart showing 0.8%]		
伊豆の国市 奈古谷	編み物教室	1	0.8%	[Bar chart showing 0.8%]		
伊豆の国市 四日町	葦山時代劇場	1	0.8%	[Bar chart showing 0.8%]		
南伊豆町	—	1	0.8%	[Bar chart showing 0.8%]		
富士市	—	1	0.8%	[Bar chart showing 0.8%]		
伊豆の国市 北江間	いちごの里	1	0.8%	[Bar chart showing 0.8%]		
伊豆の国市 田京	デイサービスカナリヤ	1	0.8%	[Bar chart showing 0.8%]		
伊豆の国市 原木	ゆりの木クリニック	1	0.8%	[Bar chart showing 0.8%]		
伊豆の国市 古奈	カーブス	1	0.8%	[Bar chart showing 0.8%]		

※無回答、行先不明を除く

○「伊豆の国市 (町丁目記載なし)」が 16.5%、「三島市」が 14.0%、「沼津市」13.2%となっています。

その他の外出時の移動手段

項目(n=161)	件数	比率
徒歩	6	3.7%
自転車	9	5.6%
バイク	1	0.6%
路線バス	2	1.2%
タクシー	2	1.2%
鉄道	7	4.3%
自家用車	101	62.7%
家族の送迎	10	6.2%
その他	3	1.9%
無回答	20	12.4%
計	161	100.0%

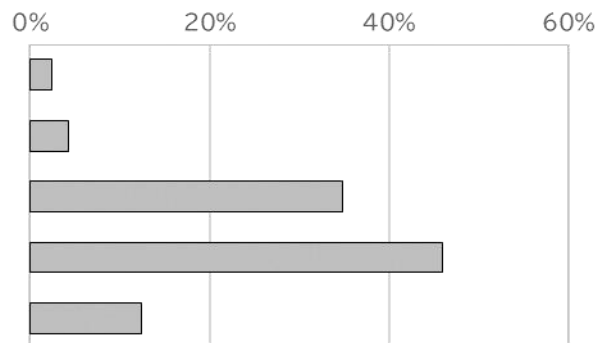


※その他: 自宅(長岡)、施設からの迎え、無回答(1)

○「自家用車」が62.7%、「家族の送迎」が6.2%となっています。

その他の外出の頻度

項目(n=161)	件数	比率
毎日	4	2.5%
平日ほぼ毎日	7	4.3%
週数回	56	34.8%
月数回	74	46.0%
無回答	20	12.4%
計	161	100.0%

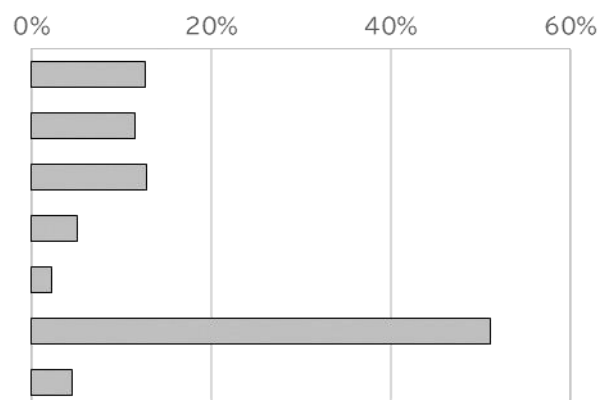


○「月数回」が46.0%、「週数回」が34.8%となっています。

(3)現状の公共交通の評価

C-1 鉄道に関する満足度

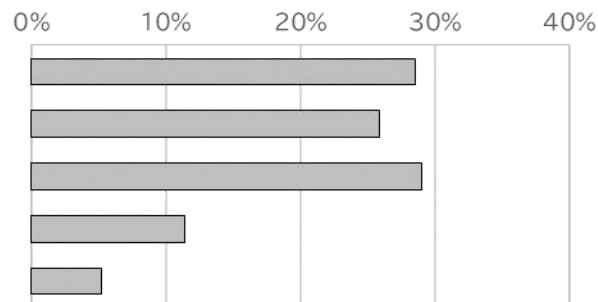
項目(n=435)	件数	比率
満足	55	12.6%
やや満足	50	11.5%
どちらでもない	56	12.9%
やや不満	22	5.1%
不満	10	2.3%
日常的には利用しない	222	51.0%
無回答	20	4.6%
計	435	100.0%



○「日常的には利用しない」が51.0%、「どちらでもない」が12.9%となっています。

「日常的には利用しない」「無回答」を除いた鉄道利用者の満足度

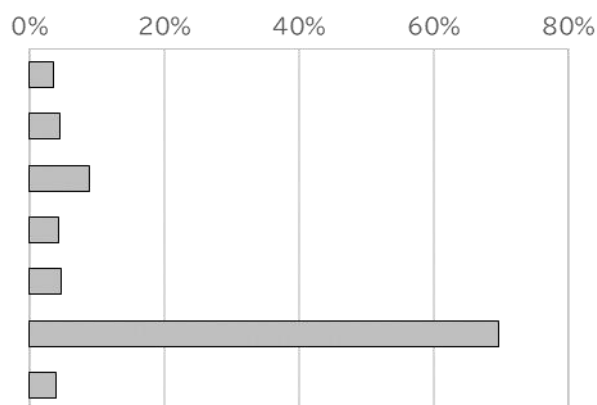
項目(n=193)	件数	比率
満足	55	28.5%
やや満足	50	25.9%
どちらでもない	56	29.0%
やや不満	22	11.4%
不満	10	5.2%
計	193	100.0%



○「どちらでもない」が29.0%、「満足」が28.5%となっています。

C-2 路線バスに関する満足度

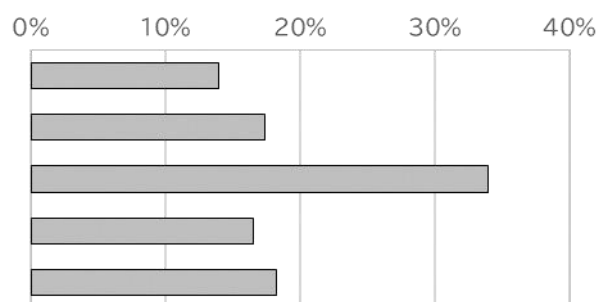
項目(n=435)	件数	比率
満足	16	3.7%
やや満足	20	4.6%
どちらでもない	39	9.0%
やや不満	19	4.4%
不満	21	4.8%
日常的には利用しない	303	69.7%
無回答	17	3.9%
計	435	100.0%



○「日常的には利用しない」が69.7%、「どちらでもない」が9.0%となっています。

「日常的には利用しない」「無回答」を除いた路線バス利用者の満足度

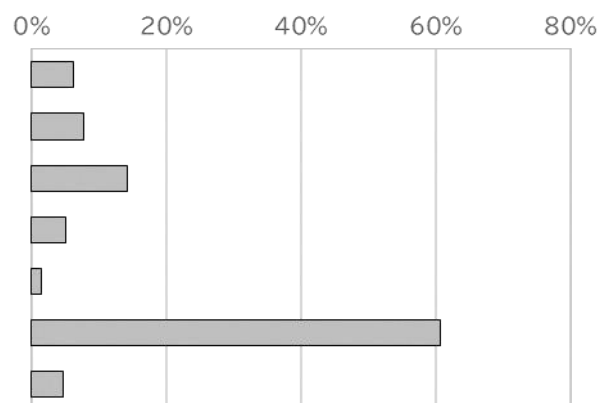
項目(n=115)	件数	比率
満足	16	13.9%
やや満足	20	17.4%
どちらでもない	39	33.9%
やや不満	19	16.5%
不満	21	18.3%
計	115	100.0%



○「どちらでもない」が33.9%、「不満」が18.3%となっています。

C-3 タクシーに関する満足度

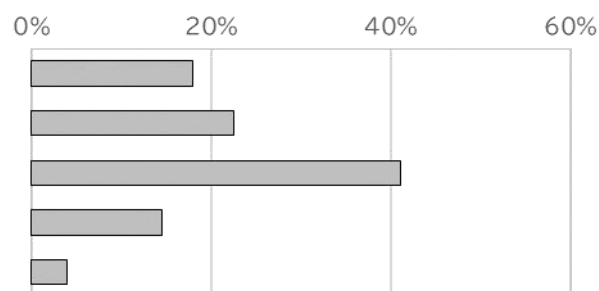
項目(n=435)	件数	比率
満足	27	6.2%
やや満足	34	7.8%
どちらでもない	62	14.3%
やや不満	22	5.1%
不満	6	1.4%
日常的には利用しない	264	60.7%
無回答	20	4.6%
計	435	100.0%



○「日常的には利用しない」が60.7%、「どちらでもない」が14.3%となっています。

「日常的には利用しない」「無回答」を除いたタクシー利用者の満足度

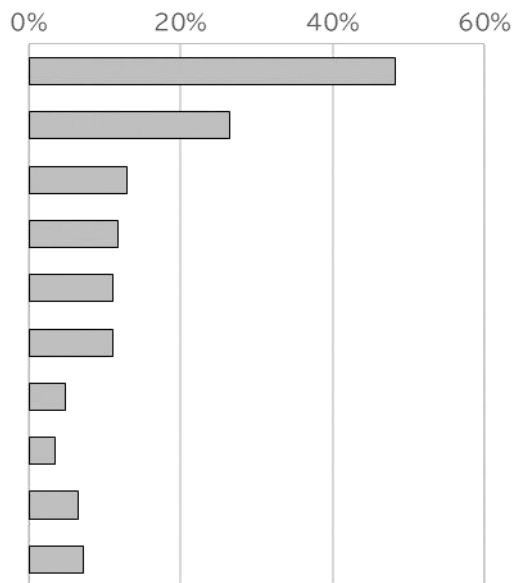
項目(n=151)	件数	比率
満足	27	17.9%
やや満足	34	22.5%
どちらでもない	62	41.1%
やや不満	22	14.6%
不満	6	4.0%
計	151	100.0%



○「どちらでもない」が41.1%、「やや満足」が22.5%となっています。

C-4 現状の外出環境で困っていることは何ですか。 (最大で3つを○)

項目(n=435)	件数	比率
特にない	210	48.3%
自宅から駅が遠い	115	26.4%
自宅から最寄りの鉄道駅までの路線バスの本数が少ない	56	12.9%
自宅近くに公共交通機関がない	51	11.7%
自宅からバス停が遠い	48	11.0%
路線バスが自宅や目的地へ通っていない	48	11.0%
目的地へ向かう公共交通機関がない	21	4.8%
身体的な理由等により公共交通機関が利用できない	15	3.4%
その他	28	6.4%
無回答	31	7.1%
計	435	—



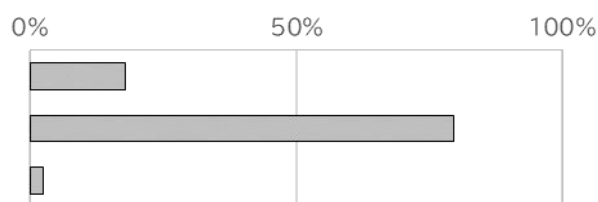
○「特にない」を除くと「自宅から駅が遠い」が 26.4%、「自宅から最寄りの鉄道駅までの路線バスの本数が少ない」が 12.9%となっています。

「目的地へ向かう公共交通機関がない」場合の具体的な目的地	
<ul style="list-style-type: none"> ・伊豆保健医療センター、順天堂病院 ・菫山駅 ・沼津、東伊豆方面 ・三島 	<ul style="list-style-type: none"> ・病院 ・職場 ・アピタ ・熱函等の国道沿いの商業施設
その他外出環境で困っていること	
<p>○鉄道について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・田京駅のサービシ性が落ちた。交通系 IC カードが使えない。 ・車いす利用なので、基本的に乗り換えは不可能 ・本数が少ない、単線、高い <p>○駅やバスターミナル周辺について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・電車の駅の近くに駐車場がない ・駅駐車スペースがせまい。 ・駅周辺の道がせまく、交通量もあり歩いていて危ない。 <p>○バスの運賃について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・路線バスの運賃が高く、高校生の通学に使えない ・バスの運賃が値上がり <p>○バスの運行本数やダイヤについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沼津駅～長岡駅までの最終バスが早すぎる。 ・バスが遅くにはない ・バスの運行回数が少ない ・バスの最終が早すぎる。タクシーが少ない ・バス本数が少ない、タクシーが少ない ・バスの回数が少ない <p>○タクシーについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夜間タクシーがない 	<p>○数年先の外出環境の不安</p> <ul style="list-style-type: none"> ・車をやめたら路線バスは重要。今は車で外出しているが、2～3年後はどうか分からないので不安。 ・免許返納まで2年間あるが、その後が心配。 ・田京駅に近いので、役場、郵便局、農協、三信があるので、歩いて行けるのでありがたい。しかし、年齢をこえると歩けないと思う。 <p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運賃が高い ・どれも高い ・朝と夕の道路渋滞 ・自分で自家用車を運転するので、今は特に無い ・雨天で遠くへ出かけなければならない時 ・基本、公共交通は使わないが、たまに夜など使う時、道が暗く怖い。 ・子供の送迎用にもなってるので、乗る気がしない。 ・三島市函南町を見習って、自主運行バスを。

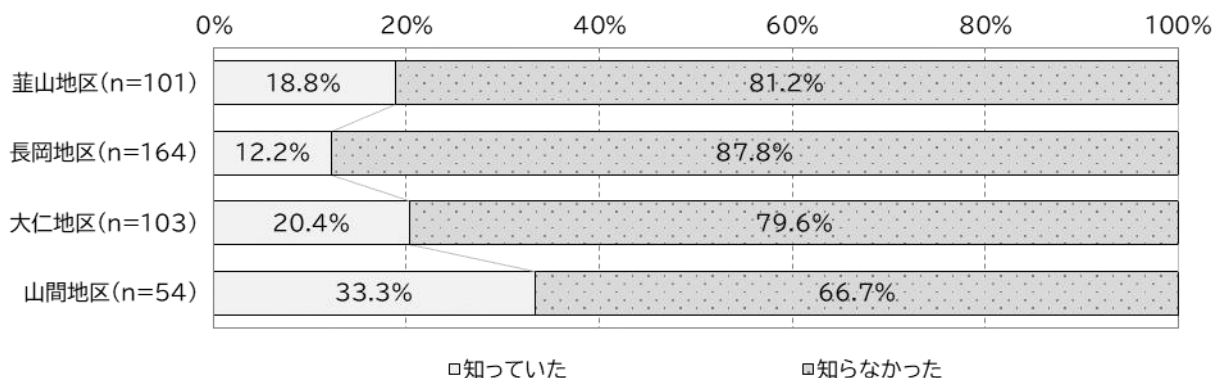
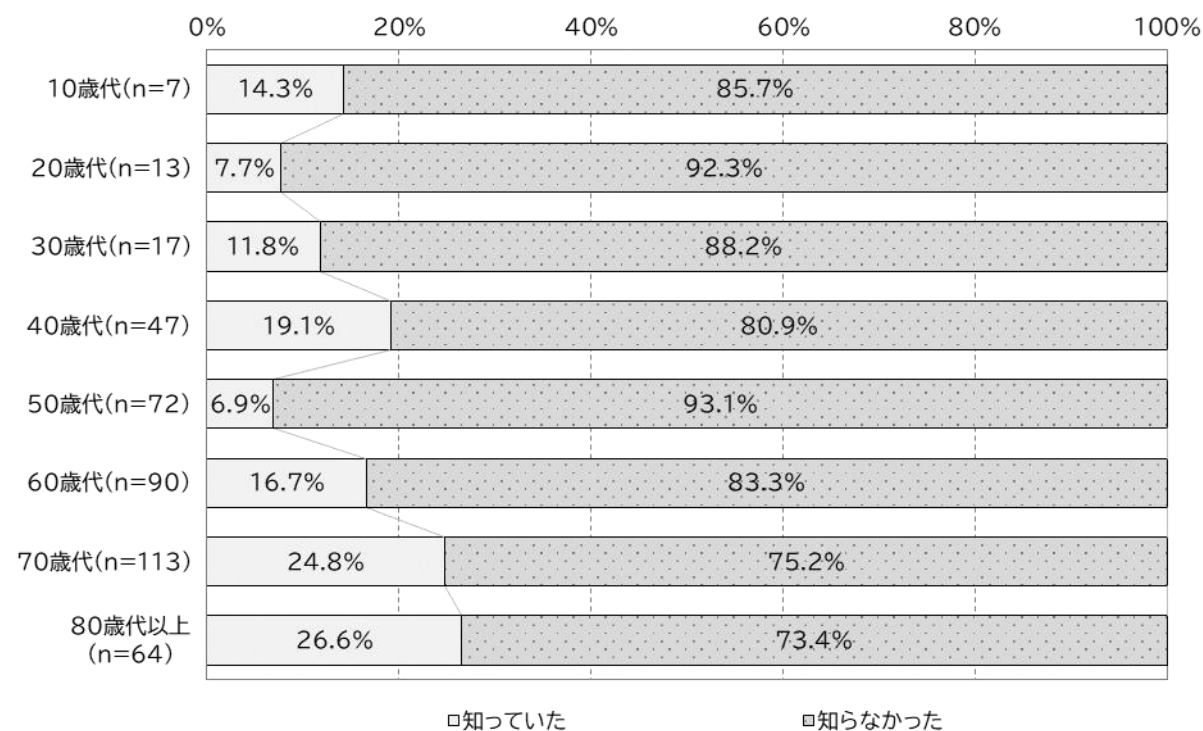
(4)市の交通施策について

D-1 自主運行バスの認知度

項目(n=435)	件数	比率
知っていた	78	17.9%
知らなかった	346	79.5%
無回答	11	2.5%
計	435	100.0%



○「知らなかった」が79.5%、「知っていた」が17.9%となっています。



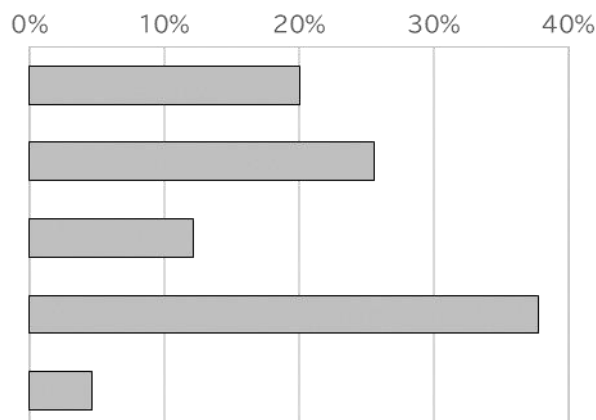
※本調査における山間地区は、10ページを参照

○年代別では、全年代で「知らなかった」が7割を超えています。

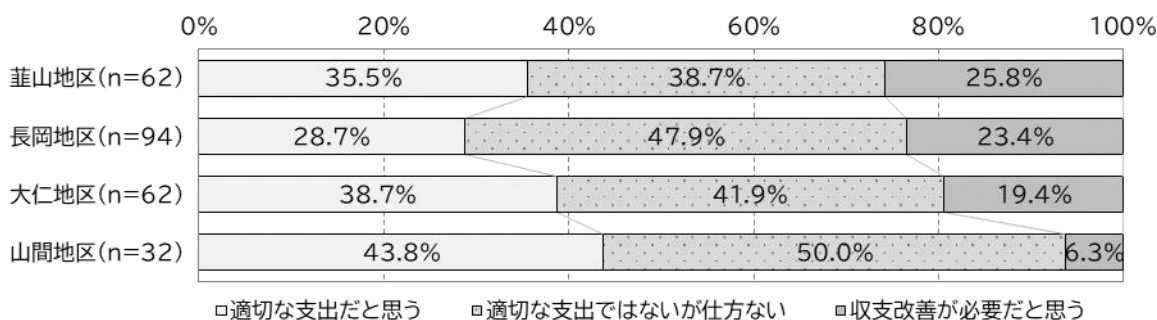
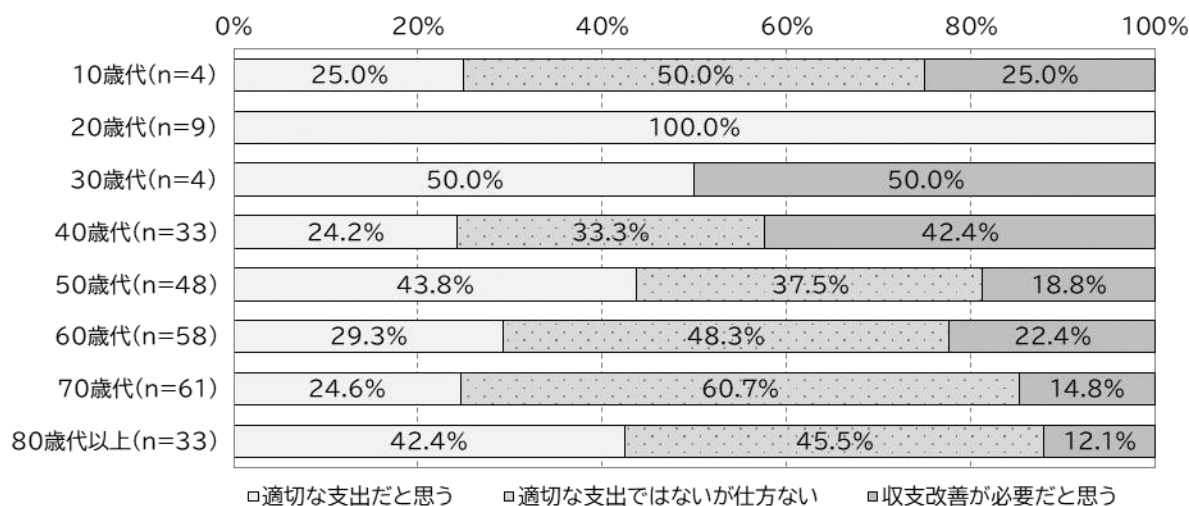
○地区別では、山間地区が自主運行バスを最も認知しており約35%、その他の地区の認知度は約1～2割となっています。

D-2 自主運行バスの支出について

項目(n=435)	件数	比率
適切な支出だと思う	87	20.0%
適切な支出ではないが仕方ない	111	25.5%
収支改善が必要だと思う	53	12.2%
分からない	164	37.7%
無回答	20	4.6%
計	435	100.0%



○「分からない」が37.7%、「適切な支出ではないが仕方ない」が25.5%となっています。



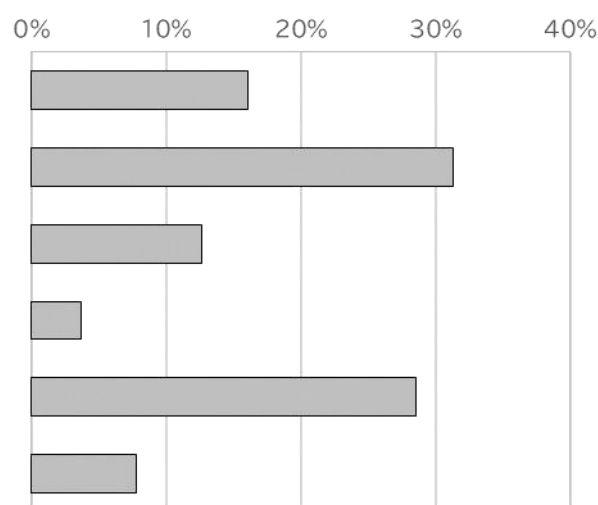
※「分からない」を除く、本調査における山間地区は、1ページを参照

○年代別では、20歳代は「適切な支出だと思う」が10割であるものの、他の年代では、「適切な支出だと思う」が5割以下となっています。

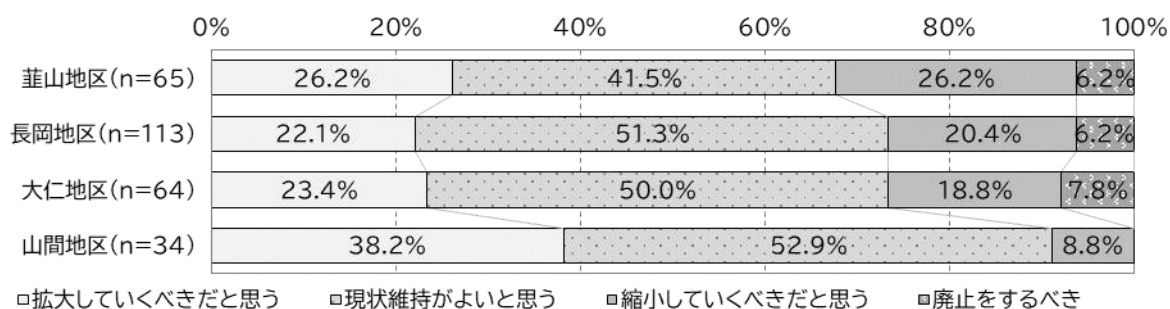
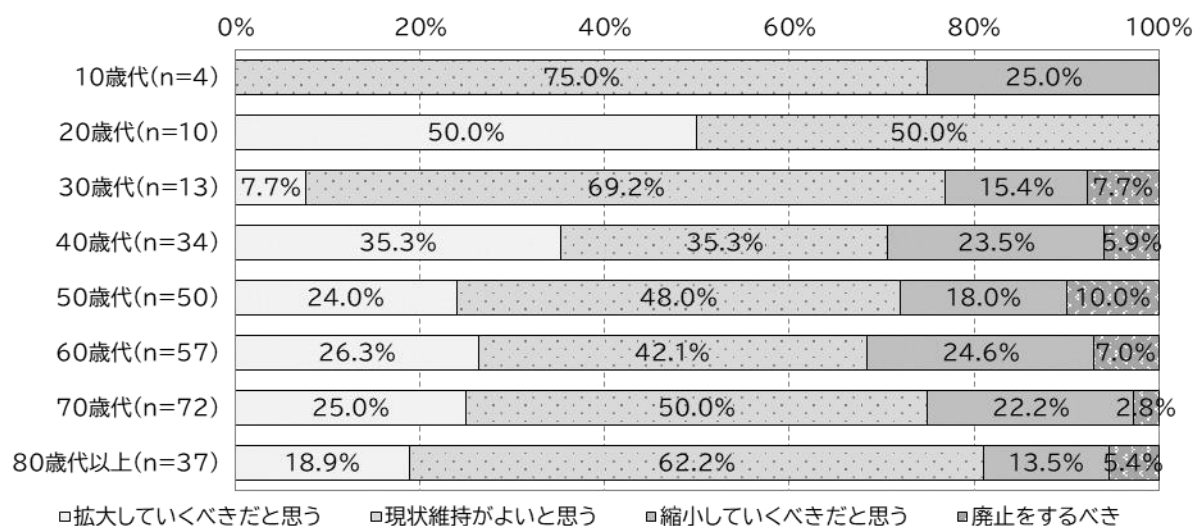
○地区別では、「適切な支出だと思う」が山間地区や大仁地区、葦山地区で約4割、長岡地区では約3割となっています。

D-3 自主運行バス事業を今後どうすべきか

項目(n=435)	件数	比率
拡大していくべきだと思う	70	16.1%
現状維持がよいと思う	136	31.3%
縮小していくべきだと思う	55	12.6%
廃止をするべき	16	3.7%
不明	124	28.5%
無回答	34	7.8%
計	435	100.0%



○「現状維持がよいと思う」が31.3%、「不明」が28.5%となっています。



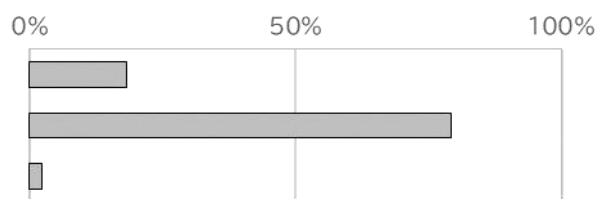
※「不明」を除く、本調査における山間地区は、1ページを参照

○年代別では、20歳代は「現状維持がよいと思う」が最も多いものの、20歳代以外では、「縮小していくべきだと思う」と「廃止をするべき」を合わせて約2～3割となっています。

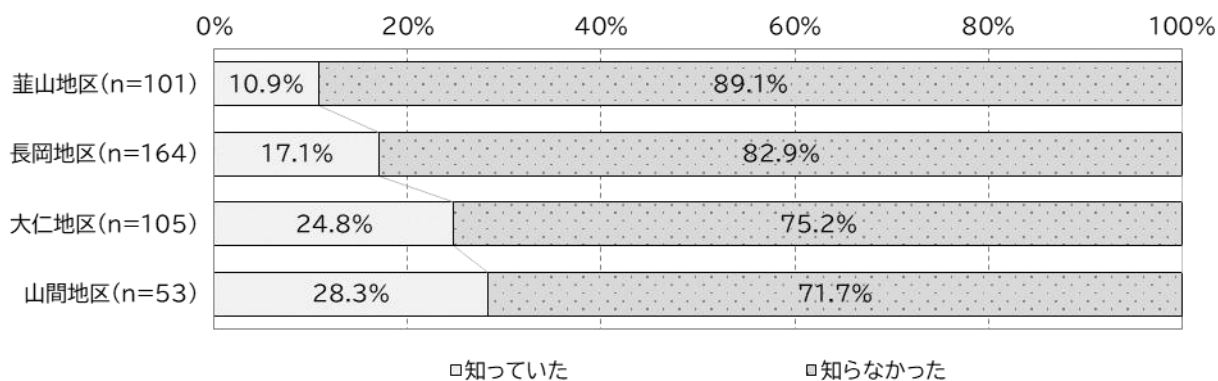
○地区別では、山間地区で「拡大していくべきだと思う」が約4割であり、他の地区と比べ高い割合になっています。

D-4 予約型乗合タクシーの認知度

項目(n=435)	件数	比率
知っていた	80	18.4%
知らなかった	345	79.3%
無回答	10	2.3%
計	435	100.0%



○「知らなかった」が79.3%、「知っていた」が18.4%となっています。



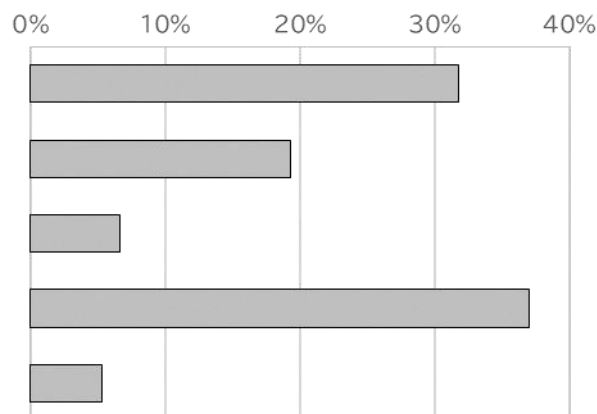
※本調査における山間地区は、10ページを参照

○年代別では、70歳代で「知っていた」が最も多く約3割、10歳代や20歳代は10割が「知らなかった」と回答しています。

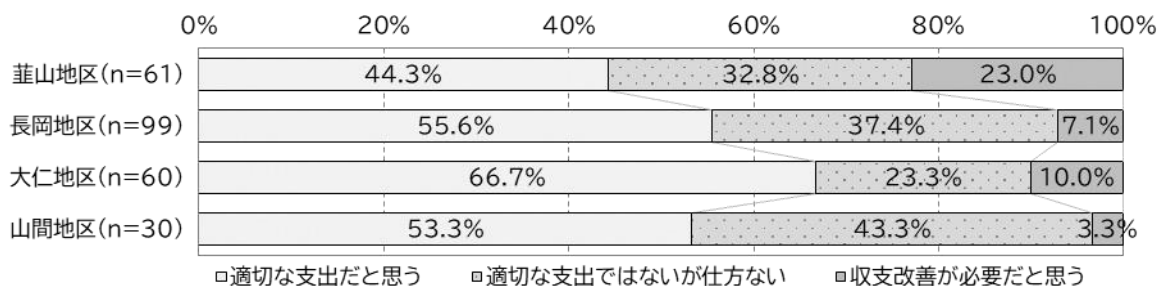
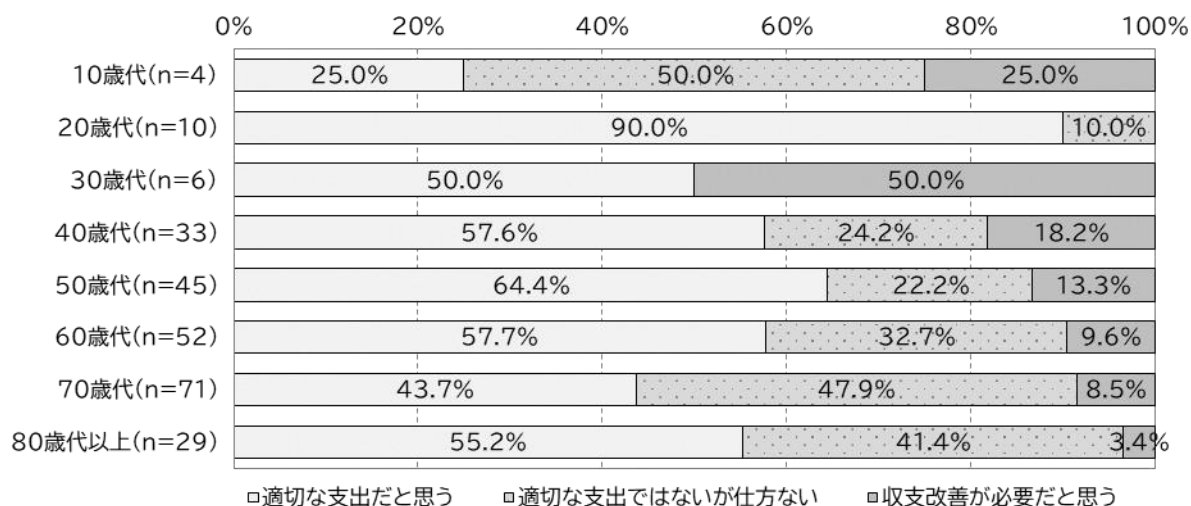
○地区別では、山間地区で「知っていた」が最も多く約3割であり、次いで大仁地区が約25%、長岡地区が約2割、葦山地区が約1割となっています。

D-5 予約型タクシー事業の支出について

項目(n=435)	件数	比率
適切な支出だと思う	138	31.7%
適切な支出ではないが仕方ない	84	19.3%
収支改善が必要だと思う	29	6.7%
分からない	161	37.0%
無回答	23	5.3%
計	435	100.0%



○「分からない」が37.0%、「適切な支出だと思う」が31.7%となっています。



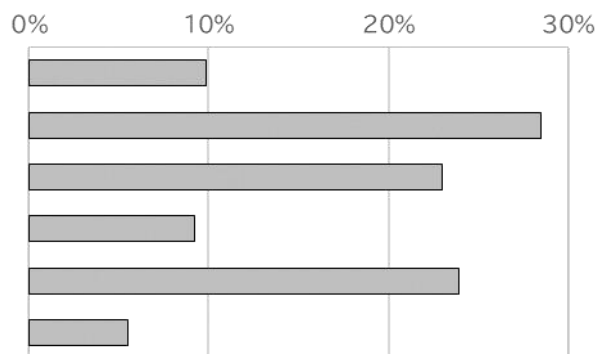
※「分からない」を除く、本調査における山間地区は、1ページを参照

○年代別では、「収支改善が必要だと思う」が30歳代で約5割あるものの、40歳代以降は減少傾向にあります。

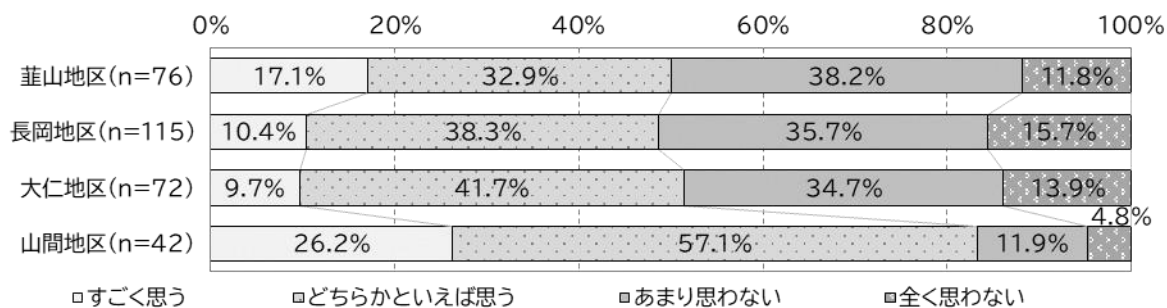
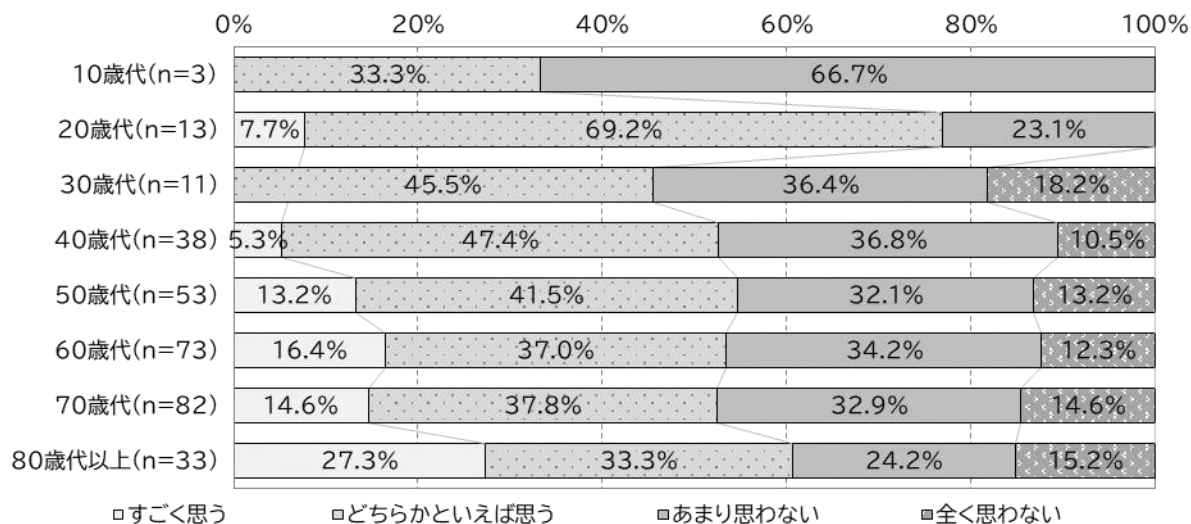
○地区別では、「適切な支出だと思う」が大仁地区で約7割、長岡地区と山間地区で約5割、葦山地区で約4割となっています。

D-6 予約型乗合タクシーが居住地区に欲しいか（必要だと思うか）

項目(n=435)	件数	比率
すごく思う	43	9.9%
どちらかといえば思う	124	28.5%
あまり思わない	100	23.0%
全く思わない	40	9.2%
分からない	104	23.9%
無回答	24	5.5%
計	435	100.0%



○「どちらかといえば思う」が28.5%、「分からない」が23.9%となっています。



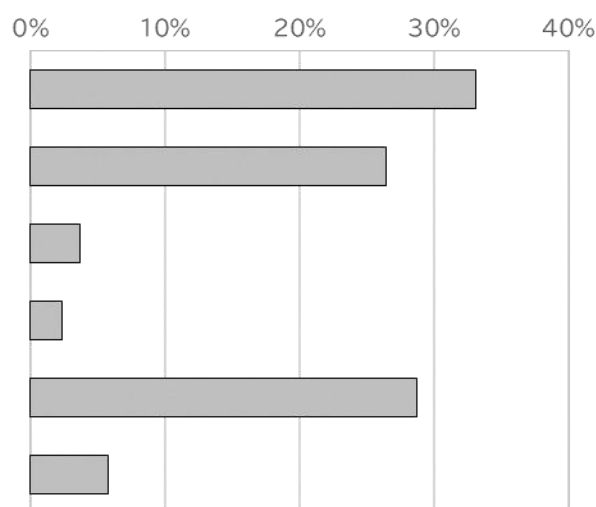
※「分からない」を除く、本調査における山間地区は、1ページを参照

○年代別では、20歳代と80歳代以上では「すごく思う」と「どちらかといえば思う」を合わせると6割を超えており、他の年代と比較して高い割合になっています。

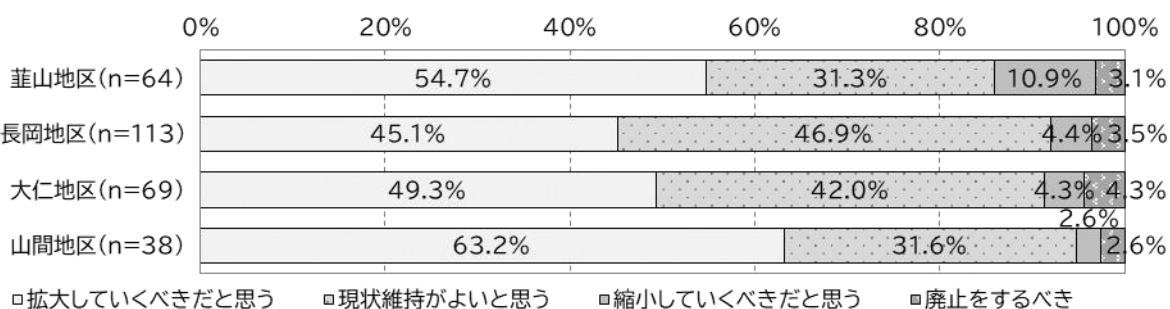
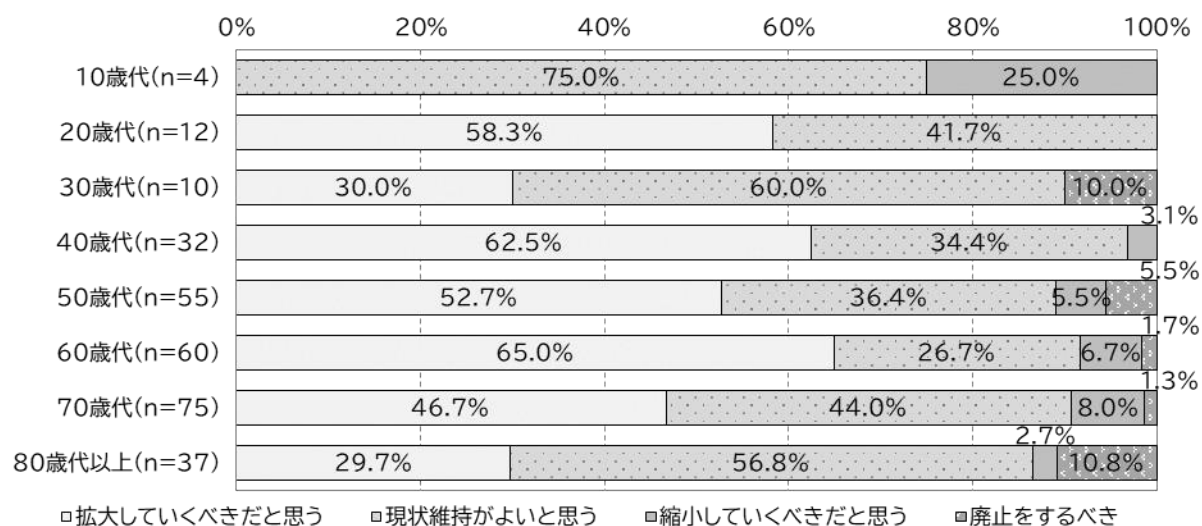
○地区別では、山間地区で「すごく思う」が最も多く約3割であり、「どちらかといえば思う」が約6割と他の地区と比較して高い割合になっています。

D-7 予約型乗合タクシー事業を今後どうすべきか

項目(n=435)	件数	比率
拡大していくべきだと思う	144	33.1%
現状維持がよいと思う	115	26.4%
縮小していくべきだと思う	16	3.7%
廃止をするべき	10	2.3%
不明	125	28.7%
無回答	25	5.7%
計	435	100.0%



○「拡大していくべきだと思う」が33.1%、「不明」が28.7%となっています。



※「不明」を除く、本調査における山間地区は、1ページを参照

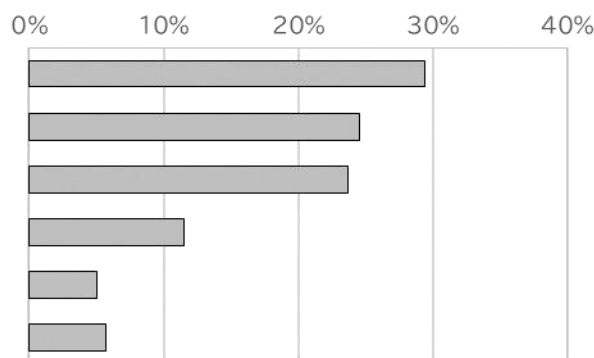
○年代別では、「拡大していくべきだと思う」は40～60歳代で5割を超え、70歳代以上よりも高い割合となっています。

○地区別では、山間地区で「拡大していくべきだと思う」が約6割と他の地区と比較して高い割合となっています。

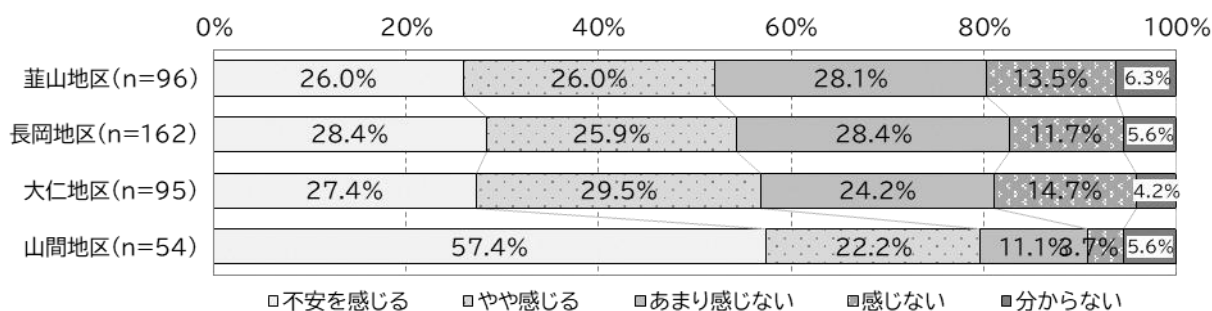
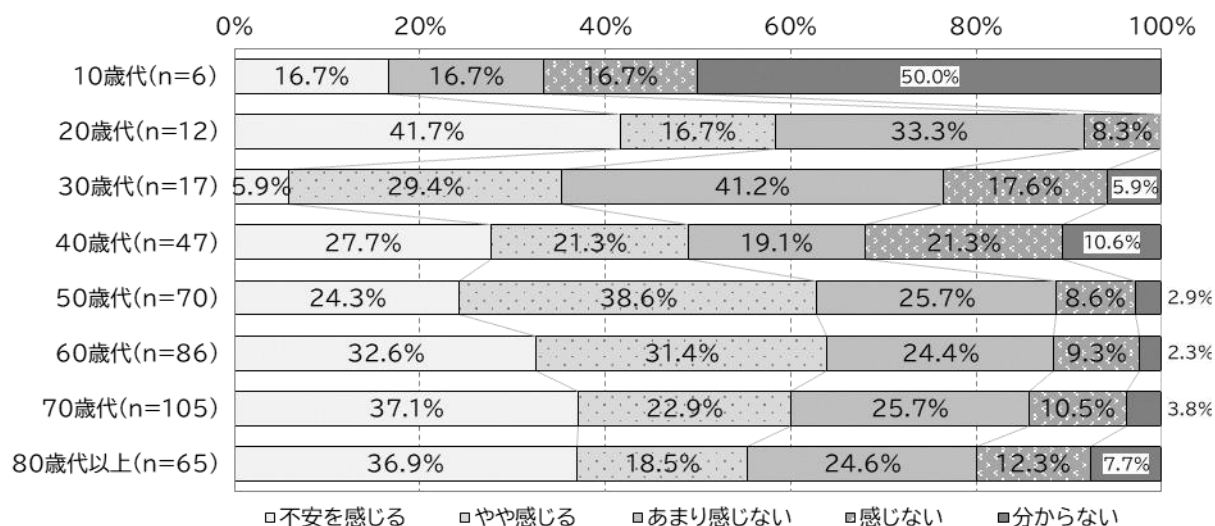
(5) 将来の移動や新技術について

E-1 買物や通院などの移動、それら施設への送迎の不安

項目(n=435)	件数	比率
不安を感じる	128	29.4%
やや感じる	107	24.6%
あまり感じない	103	23.7%
感じない	50	11.5%
分からない	22	5.1%
無回答	25	5.7%
計	435	100.0%



○「不安を感じる」が29.4%、「やや感じる」が24.6%となっています。



※本調査における山間地区は、10 ページを参照

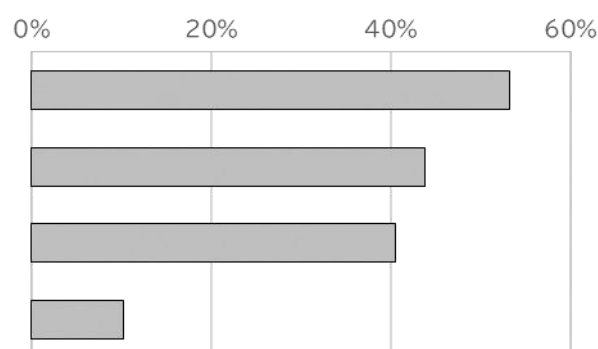
○年代別では、30 歳代までは「感じない」と「あまり感じない」の回答が多い傾向にあるものの、40 歳代以降は、「不安を感じる」と「やや感じる」が多い傾向にあります。

○地区別では、山間地区で「不安を感じる」が約5割と突出しています。

E-2 「不安を感じる」「やや感じる」と答えた理由

(該当するすべてに○)

項目(n=235)	件数	比率
家族や友人などの送迎は期待できないから	125	53.2%
自分で運転ができないから	103	43.8%
公共交通機関が不便で利用できないから	95	40.4%
その他	24	10.2%

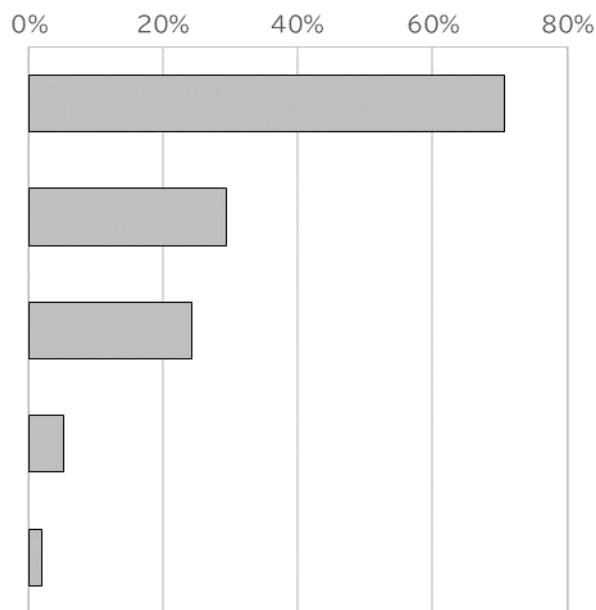


○「家族や友人などの送迎は期待できないから」が 53.2%、「自分で運転ができて移動できないから」が 43.8%となっています。

その他 不安に感じる理由	
<p><u>○自家用車の運転が不安</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・運転が得意じゃない。道が狭い。 ・いつまで運転できるか ・運転がいつまで出来るのか不安 ・自分が運転できなくなった時 ・いずれは免許返納を考えているので ・今は免許を持っているが、返納してからが心配 ・将来運転が出来なくなる日が必ず来るから ・自家用車の運転がいつまで可能なのか？ ・これから運転できなくなると不安 ・自分で運転できなくなる時が来るだろうから <p><u>○自身や家族の身体的不安</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、足が痛く、免許返納したら通院が心配 ・手や足のけが等で病院に行く時 ・今は自分の身体も社会もどうなるかわからないため、漠然とした不安がある。 ・父親が高齢なので不安 	<p><u>○荷物の運搬の不安</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・重い物が持てない。 ・免許返納すると重い荷物などの買い物ができない <p><u>○子供の通学の不安</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの通学 <p><u>○その他</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口減や高齢化 ・市営バス ・立花 GO は当方と仲良くできない(註)時間の制限等 ・公共交通機関の種類が少なすぎる。場所が限られたり。 ・車いす用のタクシーが高額。台数が少ない。

E-3 不安を「あまり感じない」「感じない」と答えた理由 (該当するすべてに○)

項目(n=153)	件数	比率
自分で運転ができて移動できるから	108	70.6%
自分で公共交通機関を利用して移動できるから	45	29.4%
家族や友人などに送迎してもらえるから	37	24.2%
その他	8	5.2%
無回答	3	2.0%

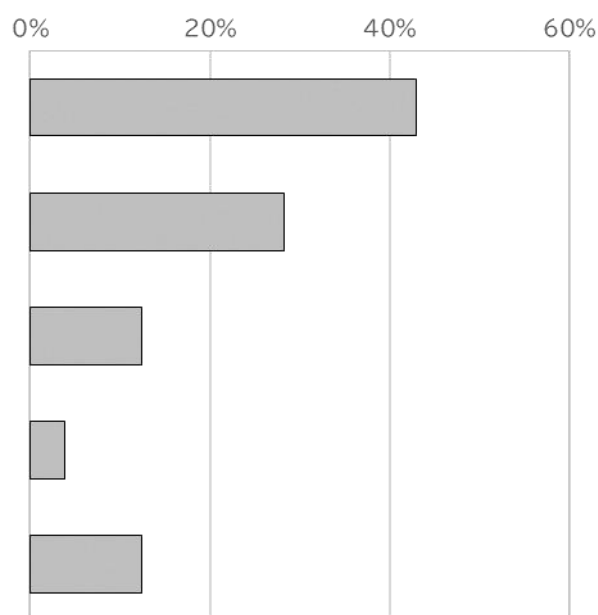


○「自分で運転ができて移動できるから」が70.6%、「自分で公共交通機関を利用して移動できるから」が29.4%となっています。

その他 不安に感じない理由
<ul style="list-style-type: none"> ・立地が良い ・自転車の利用 ・病院やスーパーが家から近い ・自宅から全て近いから ・COOP 通販を使用、宅配を使う ・徒歩 10 分以内に交通機関 ・徒歩で行けるため ・エメラルドタウン、タウンバス利用可能

E-4 地域の助け合い交通の必要性を感じるか

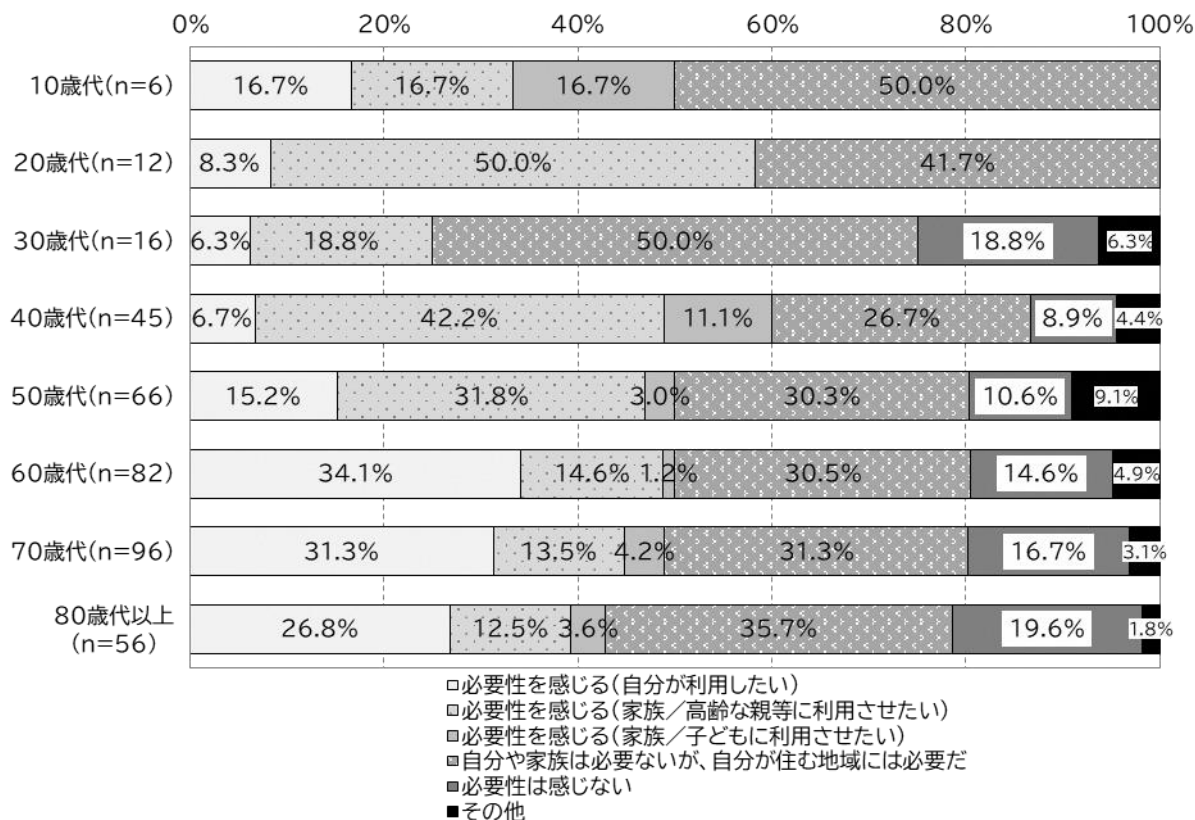
項目(n=435)	件数	比率
必要性を感じる(自分が利用したい)	89	20.5%
必要性を感じる(家族／高齢な親等に利用させたい)	83	19.1%
必要性を感じる(家族／子どもに利用させたい)	15	3.4%
必要性を感じる 小計	187	43.0%
自分や家族は必要ないが、自分が住む地域には必要だ	123	28.3%
必要性は感じない	54	12.4%
その他	17	3.9%
無回答	54	12.4%
計	435	100.0%



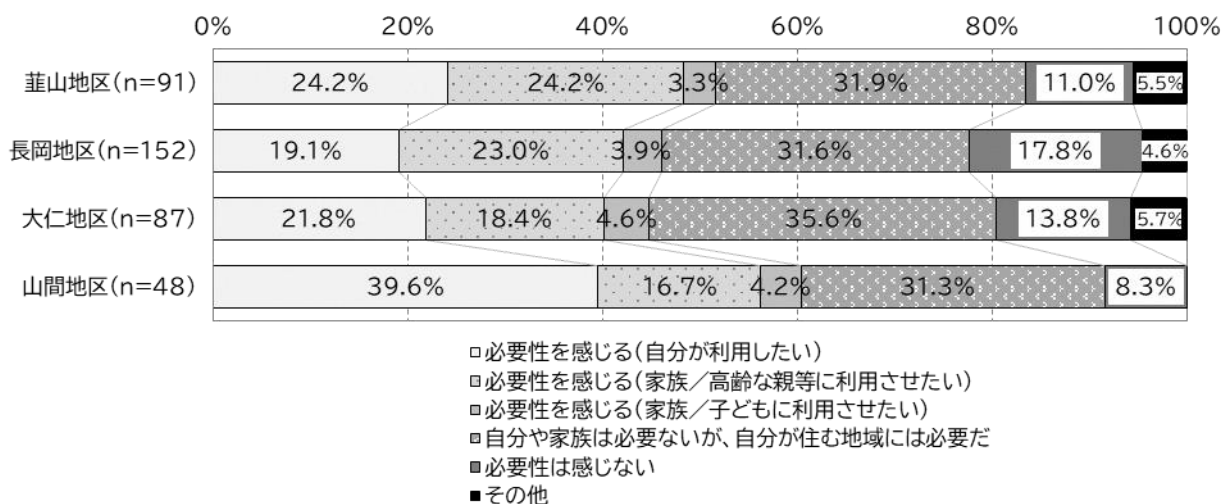
○「必要性を感じる」が 43.0%、「自分や家族は必要ないが、自分が住む地域には必要だ」が 28.3%、「必要性は感じない」が 12.4%となっています。

その他	
<p>○自分や自分の住む地域には必要ないが他の地域や高齢者には必要</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の家族、自分の住む地域には必要ないかもしれないが、他の地域には必要だろうと思う 自分の地区には必要ないが、必要な地域はあると思う 自分や家族は必要ないが、高齢者には必要 <p>○必要があるか分からない</p> <ul style="list-style-type: none"> 今は分からない 今はあまり気にしていない まだ実感がなくて、分からない 近隣には自立している人がほとんどであるため、わからない 不明 	<p>○その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 必要性を感じるが、事故が起こった時の対応等責任問題、難しい問題があると思う 将来は必要になると思う 現在のバスの大きさはいけない。ほとんど乗っていない。マイクロバスサイズが良い。電気自動車など 必要とする人がいるなら良いことだと思う 年配の方が運転しており危険な状況を見ているので、免許返納を推進していただき、その代わりにこういった事業を知らせて行けば良いのではと思う 伊豆の国市内だけなら必要ない

資料2 現況調査結果



○全年代で「必要を感じる」が回答されており、「必要性を感じない」は30歳代以降の各年代で約1～2割となっています。

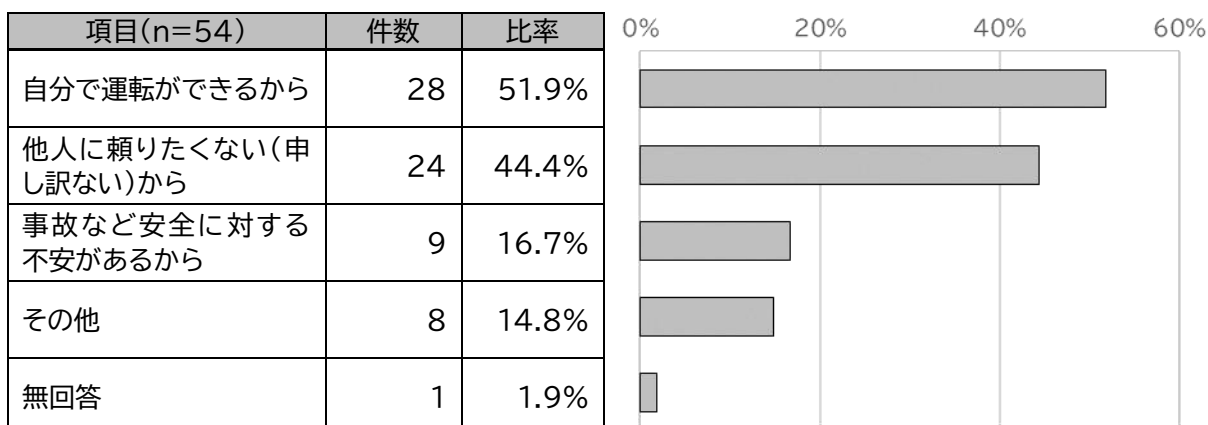


※本調査における山間地区は、10ページを参照

○地区別では、山間地区で「必要を感じる（自分が利用したい）」が約4割と突出しています。

E-5 地域の助け合い交通の必要性を感じない理由

(該当するすべてに○)



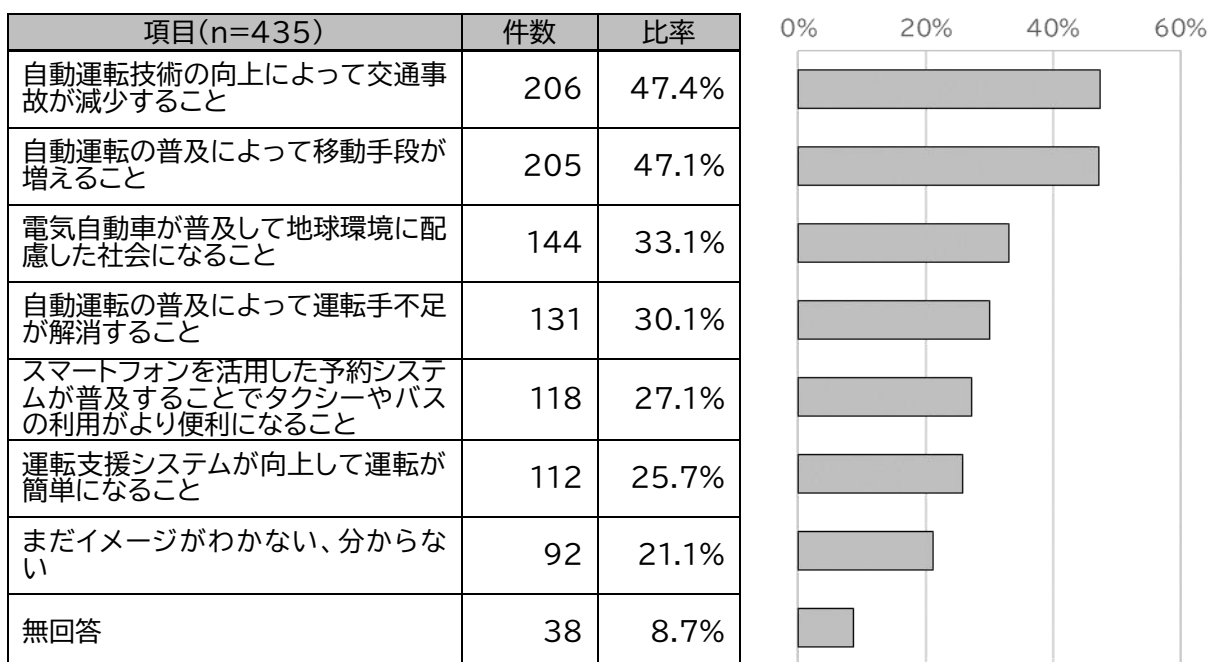
○「自分で運転ができるから」が51.9%、「他人に頼りたくない(申し訳ない)から」が44.4%となっています。

その他 不安に感じない理由

- ・家族が送迎するので
- ・バスの路線を増やすべきだと思うから
- ・その人が本当に信用できるか分からないのと、他人なので気を使って疲れるから。
- ・事故の時の責任の所在に課題があると考える。
- ・トラブルの原因になる
- ・自分の生活は自己管理すべきだから
- ・エメラルドタウン タウンバスの利用

E-6 技術進歩で期待すること

(該当するすべてに○)



○「自動運転技術の向上によって交通事故が減少すること」が47.4%、「自動運転の普及によって移動手段が増えること」が47.1%となっています。

5-3 調査票

公共交通に関わる市民アンケート調査 ご協力をお願い

市民の皆様には、日頃より市政運営にご理解、ご協力いただき、誠にありがとうございます。

鉄道や路線バス、タクシーなどの公共交通は、皆様の生活の足として日常生活に欠かせないものですが、新たな生活様式の定着による移動需要の減少、燃料費や人件費の増加により交通事業を取り巻く環境は大変厳しくなっております。

このような社会情勢の中、市では、今後も継続的かつ効率的にサービスを提供するため、今年度「伊豆の国市地域公共交通計画」の策定作業を進めています。計画の検討を進める上で、皆様の外出等の実態や公共交通の利用状況などを把握することが重要であることから、このたび、アンケート調査を実施することとしました。

お忙しいところ恐縮ですが、市民の代表として、ぜひ調査にご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和5年6月

伊豆の国市長 山下 正行

ご回答にあたってのお願い

- ◆ このアンケートは、本市にお住まいの16歳以上90歳未満の方の中から無作為に選ばれた1,000人の方にお送りしています。
- ◆ あて名のご本人がお答えください(代筆は差し支えありません)。
- ◆ ご回答いただいた内容は、統計的な分析にのみ使用し、それ以外の目的に使用することはありません。また、個人が特定されることもありません。
- ◆ **令和5年6月30日(金)まで**に調査票に直接ご記入いただき、同封の返信用封筒(切手不要)に入れて、郵便ポストへ投函してください。

問合せ先

伊豆の国市役所 企画財政部協働まちづくり課



TEL/055-948-1412 FAX/055-948-2915

E-mail/kyoudou@city.izunokuni.shizuoka.jp



A あなた(回答者)自身のことについて、お聞きします。			
-1	性別を教えてください。	1 男性 2 女性 3 答えたくない	
-2	年齢はおいくつですか。	1 10歳代 2 20歳代 3 30歳代 4 40歳代 5 50歳代 6 60歳代 7 70歳代 8 80歳代以上	
-3	お住まいの地区はどちらですか。	1 長岡地区 2 蕪山地区(高原、小松ヶ原に在住の方) 3 蕪山地区(2以外で蕪山地域に在住の方) 4 大仁地区(長者原、田原野、浮橋、下畑、田中山に在住の方) 5 大仁地区(4以外で大仁地域に在住の方)	
-4	家族構成は次のうちどれですか。	1 ひとり暮らし 2 夫婦のみ 3 2世代同居(例:親と子) 4 3世代同居(例:親と子と孫) 5 その他()	
-5	運転免許を持っていますか。	1 持っている 2 持っていない 3 運転免許返納済み	
-6	自家用車・バイクを持っていますか。 また、運転をしていますか。	1 自家用車・バイクを持っていて、運転している 2 自家用車・バイクを持っているが、今は運転していない 3 自家用車・バイクは持っていないが、家族で共有し運転している 4 自家用車・バイクを持っておらず、運転もしていない	
-7	免許返納を考えていますか。	1 近いうちに考えている 2 いずれは考えている 3 今は考えていない 4 既に返納済み 5 分からない	
-8	スマートフォンの経路検索アプリを利用できますか。	1 経路検索アプリを利用できる 2 経路検索アプリは使えない 3 スマートフォンを持っていない	
B あなたの日常の外出について、お聞きします。			
過去、1カ月程度で「通勤・通学」、「買物」、「通院」等それぞれの目的ごとに、最も多かった外出先について、教えてください。(該当する外出がない場合は、空欄で構いません。)			
目的	外出先住所など	主な交通手段(○は1つ)	外出の頻度(○は1つ)
通勤 通学	市・町 町・丁目	1 徒歩 2 自転車 3 バイク 4 路線バス 5 タクシー 6 鉄道 7 自家用車 8 家族の送迎 9 その他()	1 毎日 2 平日はほぼ毎日 3 週 回程度 4 月 回程度
買物	市・町 町・丁目 (施設名:)	1 徒歩 2 自転車 3 バイク 4 路線バス 5 タクシー 6 鉄道 7 自家用車 8 家族の送迎 9 その他()	1 毎日 2 平日はほぼ毎日 3 週 回程度 4 月 回程度
通院	市・町 町・丁目 (施設名:)	1 徒歩 2 自転車 3 バイク 4 路線バス 5 タクシー 6 鉄道 7 自家用車 8 家族の送迎 9 その他()	1 毎日 2 平日はほぼ毎日 3 週 回程度 4 月 回程度
その他の 外出	市・町 町・丁目 (施設名:)	1 徒歩 2 自転車 3 バイク 4 路線バス 5 タクシー 6 鉄道 7 自家用車 8 家族の送迎 9 その他()	1 毎日 2 平日はほぼ毎日 3 週 回程度 4 月 回程度

C		現状の公共交通の利便性等について、お聞きします。	
-1	鉄道に関する満足度	1 満足 2 やや満足 3 どちらでもない 4 やや不満 5 不満 6 日常的には利用しない	
-2	路線バスに関する満足度	1 満足 2 やや満足 3 どちらでもない 4 やや不満 5 不満 6 日常的には利用しない	
-3	タクシーに関する満足度	1 満足 2 やや満足 3 どちらでもない 4 やや不満 5 不満 6 日常的には利用しない	
-4	現状の外出環境で困っていることは何ですか。 (最大で3つを○)	1 自宅から鉄道駅が遠い 2 自宅からバス停が遠い 3 自宅から最寄りの鉄道駅までの路線バスの本数が少ない 4 路線バスが自宅や目的地へ通っていない 5 自宅近くに公共交通機関がない 6 身体的な理由等により公共交通機関が利用できない 7 目的地へ向かう公共交通機関がない (目的地:) 8 特にない 9 その他()	
D		伊豆の国市の交通施策(自主運行バス事業)について、お聞きします。	
市では、民間路線を除くバス路線の維持に、年間で約3,100万円を支出しています(R3実績)。 この金額は、市民1人当たり換算で年額645円を負担している計算です。 ● 千代田団地～葦山駅～奈古谷温泉口線 ● 亀石峠～田京駅・大仁駅～田京駅線			
-1	この現状を知っていましたか。	1 知っていた 2 知らなかった	
-2	これは適切な支出だと思いますか。	1 適切な支出だと思う 2 適切な支出ではないが仕方ない 3 収支改善が必要だと思う 4 分からない	
-3	この事業は今後どうしていくべきだと思いますか。	1 拡大していくべきだと思う 2 現状維持がよいと思う 3 縮小していくべきだと思う 4 廃止をするべき 5 不明	
市では、予約型乗合タクシー事業(地区内にバス停を置き、最寄りの鉄道駅や商店等まで1日当たり6～8便、自己負担は概ね400円～500円、予約があった場合のみ運行。自主的な地区組織を立ち上げ、市と交通事業者と地区組織の3者が協働して運行する交通システム)を運行し、この事業は、年間で約130万円を支出しています(R4実績)。 この金額は、市民1人当たり換算で年額27円を負担している計算です。 ● 星の花号(星和・立花台～伊豆長岡駅・田京駅) ● 立花Go!(立花～田京駅)			
-4	この制度を知っていましたか。	1 知っていた 2 知らなかった	
-5	これは適切な支出だと思いますか。	1 適切な支出だと思う 2 適切な支出ではないが仕方ない 3 収支改善が必要だと思う 4 分からない	
-6	あなたの地区にも欲しいと思いますか(必要だと思いますか)。	1 すごく思う 2 どちらかといえば思う 3 あまり思わない 4 全く思わない 5 分からない	
-7	この事業は今後どうしていくべきだと思いますか。	1 拡大していくべきだと思う 2 現状維持がよいと思う 3 縮小していくべきだと思う 4 廃止をするべき 5 不明	

E 将来のあなた(回答者)やあなたの家族について、お聞きします。		
-1	買物や通院などの移動、それらの施設への送迎に不安を感じますか。	1 不安を感じる(-2 へ) 2 やや感じる(-2 へ) 3 あまり感じない(-3 へ) 4 感じない(-3 へ) 5 分からない
-2	問1で「不安を感じる」「やや感じる」と答えた方はその理由を教えてください。(該当するすべてに○)	1 自分で運転ができないから 2 公共交通機関が不便で利用できないから 3 家族や友人などの送迎が期待できないから 4 その他()
-3	問1で不安は「あまり感じない」「感じない」と答えた方はその理由を教えてください。(該当するすべてに○)	1 自分で運転できて移動できるから 2 自分で公共交通機関を利用して移動できるから 3 家族や友人などに送迎してもらえるから 4 その他()
近年、自治体によっては、バスの減便や廃止、免許返納の増加によって、 地域住民同士の助け合いによる送迎 を行うなど様々な試みが進んでおり、伊豆の国内市でも千代田区で見守り隊×社会福祉法人あやめ会によるボランティア移送に取り組んでいる事例もあります。		
-4	あなたは、地域の助け合い交通について、必要性を感じますか。	1 必要性を感じる(自分が利用したい) 2 必要性を感じる(家族/高齢な親等に利用させたい) 3 必要性を感じる(家族/子どもに利用させたい) 4 自分や家族は必要ないが、自分が住む地域には必要だ 5 必要性は感じない(-5 へ) 6 その他()
-5	問4で「必要性は感じない」と答えた方はその理由を教えてください。(該当するすべてに○)	1 自分で運転ができるから 2 事故など安全に対する不安があるから 3 他人に頼りたくない(申し訳ない気持ちになる)から 4 その他()
近年では、電気自動車やAIを活用した自動運転技術の開発が進み、全国的に様々な実証実験が行われています。実用化にはまだ時間がかかるかもしれませんが、静岡県内でも同様に実証実験が始まっています。		
 ← コントロールセンター  使用しているEV車両 ↓		
【しずおかShowCASEプロジェクト】		
-6	技術進歩であなたが期待することは何ですか。(該当するすべてに○)	1 自動運転の普及によって移動手段が増えること 2 自動運転の普及によって運転手不足が解消すること 3 自動運転技術の向上によって交通事故が減少すること 4 運転支援システムが向上して運転が簡単になること 5 電気自動車が普及して地球環境に配慮した社会になること 6 スマートフォンを活用した予約システムが普及することでタクシーやバスの利用がより便利になること 7 まだイメージがわからない、分からない
アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。		

6. 観光客ヒアリング調査結果

6-1 調査の概要

(1)調査の目的

伊豆の国市を含む伊豆地域は、鉄道やバス等の公共交通手段は整備されているものの、その利便性が高いとはいえない状況にあるため、公共交通で訪れる観光客の移動手段と移動手段の利便性に関する現状を把握することを目的としました。

(2)調査の概要

■調査対象者	伊豆長岡駅を利用する観光客
■調査期間	令和5年7月7日（金）～令和5年7月10日（月）
■調査方法	手渡し・説明による記入式
■回収数	回収数 54件

(3)調査結果の見方

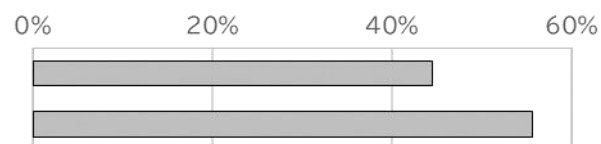
- ①比率はすべてパーセント表示とし、小数点第2位で四捨五入しているため、パーセントの合計が100.0%にならない場合があります。
- ②母数となるべき実数は、回答者数として示しています。複数回答が可能な設問についても、比率算出の母数は回答者数とし、それぞれの選択肢の支持率を算出しています。そのため、複数回答が可能な設問は、回答総数が回答者数を上回り、パーセントの合計は、100.0%を超える値となっています。
また、別途表記があるものについては、無回答をサンプル数から除いた値を基数としています。
- ③表中の「n」は、設問の回答対象となる人数を表しています。

6-2 調査の結果

(1)回答者属性

属性1 性別

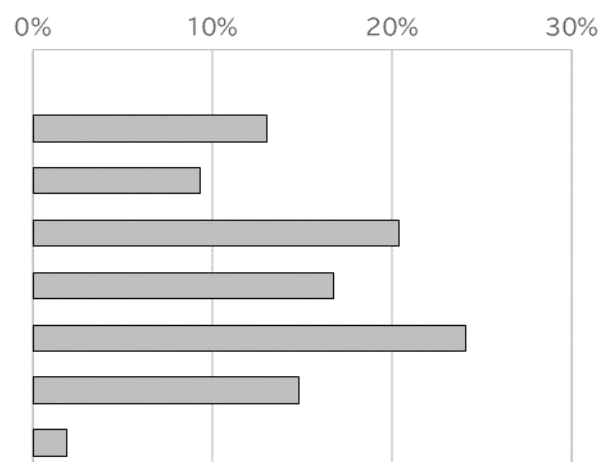
項目(n=54)	件数	比率
男性	24	44.4%
女性	30	55.6%
計	54	100.0%



○「男性」が44.4%、「女性」が55.6%となっています。

属性2 年齢

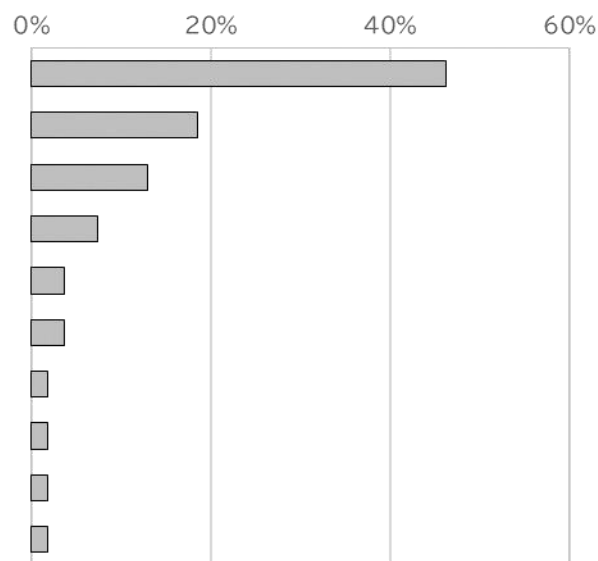
項目(n=54)	件数	比率
10代	0	0.0%
20代	7	13.0%
30代	5	9.3%
40代	11	20.4%
50代	9	16.7%
60代	13	24.1%
70代	8	14.8%
80代	1	1.9%
計	54	100.0%



○「60代」が24.1%と最も多く、次いで「40代」20.4%、「70代」14.8%となっています。

属性3 居住地

項目(n=54)	件数	比率
東京都	25	46.3%
神奈川県	10	18.5%
静岡県	7	13.0%
埼玉県	4	7.4%
兵庫県	2	3.7%
外国	2	3.7%
茨城県	1	1.9%
徳島県	1	1.9%
岡山県	1	1.9%
千葉県	1	1.9%
計	54	100.0%

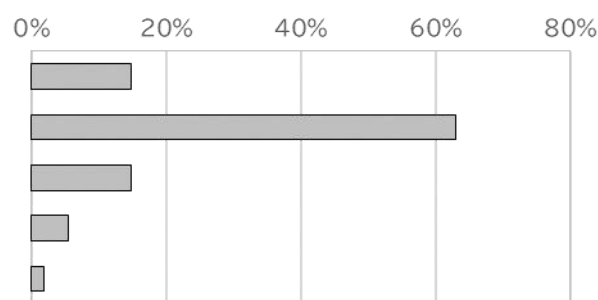


- 「東京都」が最も多く46.3%、次いで「神奈川県」が18.5%となっています。
- 「静岡県」の内訳は、静岡市が6件、浜松市が1件です。
- 「外国」の内訳は、インドネシアが1件、ニュージーランドが1件です。

(2)一緒に訪れた人数

問1 今回の旅行は何名でお越しですか

項目(n=54)	件数	比率
1人旅	8	14.8%
2人	34	63.0%
3人	8	14.8%
4人	3	5.6%
5人以上	1	1.9%
計	54	100.0%

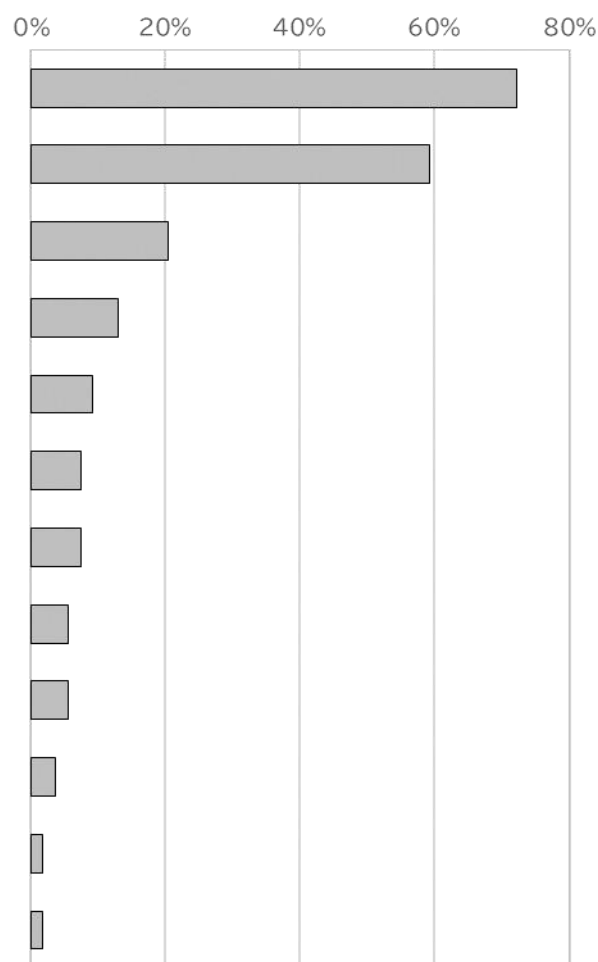


- 「2人」が63.0%と最も多く、次いで「1人旅」と「3人」が14.8%、「4人」が5.6%となっています。

(3)訪れた目的

問2 本地域では何を楽しみにしていましたか（楽しみですか）？（あてはまるもの全て）

項目(n=54)	件数	比率
温泉に入ること	39	72.2%
おいしいものを食べる こと	32	59.3%
自然景観を見ること	11	20.4%
名所旧跡を見ること	7	13.0%
自然の豊かさを体験す ること	5	9.3%
観光・文化施設を訪れ ること	4	7.4%
買物をする事	4	7.4%
街や都市を訪れること	3	5.6%
その他	3	5.6%
地域の文化を体験する こと	2	3.7%
帰省、冠婚葬祭関係	1	1.9%
親族や知人への訪問	1	1.9%

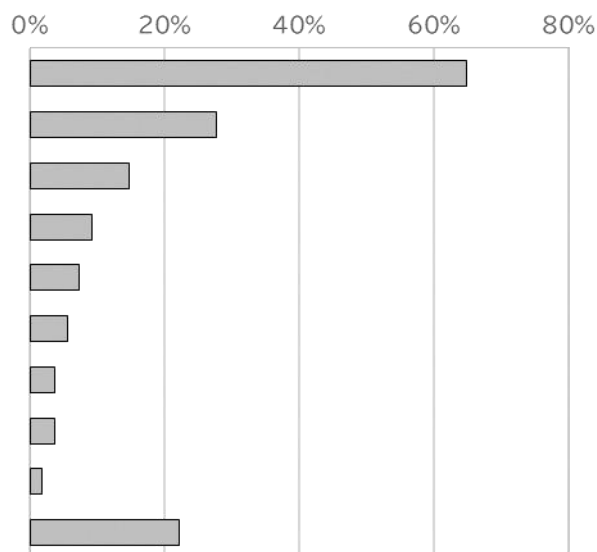


○「温泉に入ること」が最も多く72.2%、次いで「おいしいものを食べること」が59.3%となっています。

(4)訪れた場所

問3 本地域ではどこを訪れましたか（訪れますか）？（あてはまるもの全てに○）

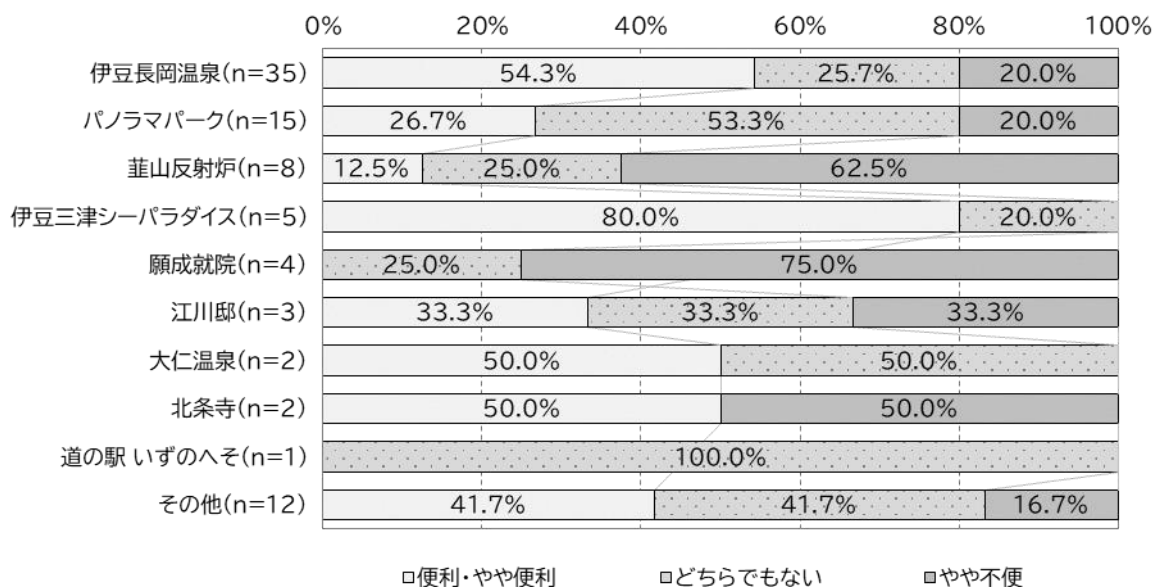
項目(n=54)	件数	比率
伊豆長岡温泉	35	64.8%
パノラマパーク	15	27.8%
韮山反射炉	8	14.8%
伊豆三津シーパラダイス	5	9.3%
願成就院	4	7.4%
江川邸	3	5.6%
大仁温泉	2	3.7%
北条寺	2	3.7%
道の駅 いずのへそ	1	1.9%
その他	12	22.2%



○「伊豆長岡温泉」が 64.8%と最も多く、次いで「パノラマパーク」27.8%、「韮山反射炉」14.8%となっています。

その他(伊豆の国内)
・蛭ヶ小島公園 ・政子の産湯井戸 ・オリーブの木
その他(市外)
・やまや ・さわやか ・三島大社 ・中伊豆ワイナリー ・修善寺温泉

場所別の交通利便性

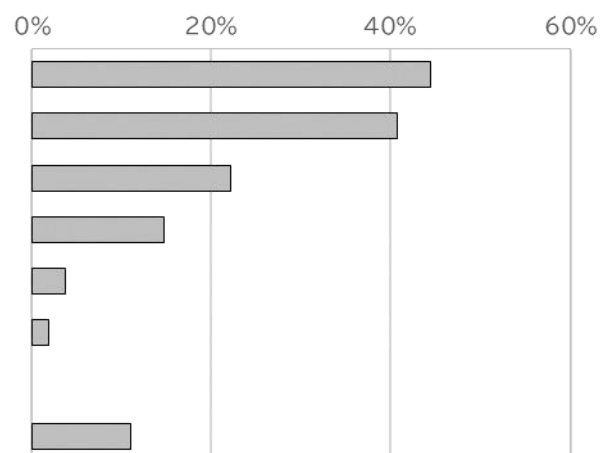


○「願成就院」や「韮山反射炉」は、交通利便性が「やや不便」と低く評価されています。

(5)主な訪問先への移動手段

問4 主な訪問先への移動手段を教えてください。(あてはまるもの全てに○)

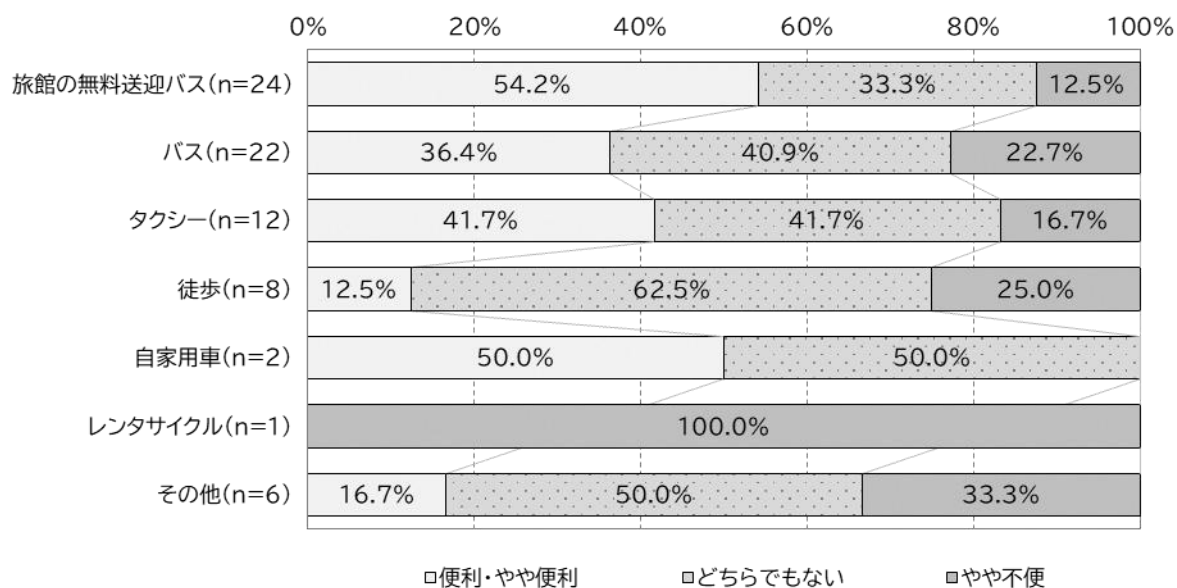
項目(n=54)	件数	比率
旅館の無料送迎バス	24	44.4%
バス	22	40.7%
タクシー	12	22.2%
徒歩	8	14.8%
自家用車	2	3.7%
レンタサイクル	1	1.9%
レンタカー	0	0.0%
その他	6	11.1%



○「旅館の無料送迎バス」が最も多く44.4%、次いで「バス」が40.7%となっています。

その他
・電車(3) ・周遊バス、歴バス(2) ・親族の車

移動手段別の交通利便性

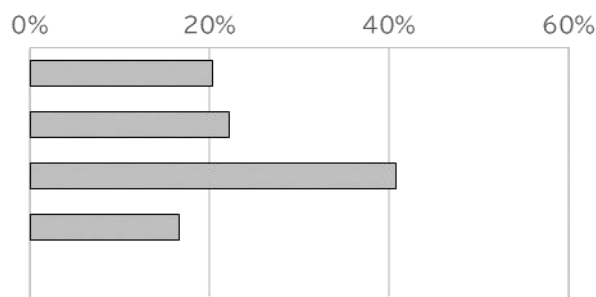


○「旅館の無料送迎バス」利用者の54.2%が「便利・やや便利」と回答し、「バス」や「タクシー」の利用者も約4割が「便利・やや便利」と回答しています。

(6)主な訪問先への交通の利便性

問5 主な訪問先への交通は便利だと思いますか？

項目(n=zzz)	件数	比率
便利	11	20.4%
やや便利	12	22.2%
どちらでもない	22	40.7%
やや不便	9	16.7%
不便	0	0.0%
計	54	100.0%



○「どちらでもない」が40.7%と最も多く、次いで「やや便利」22.2%、「便利」20.4%となっています。

問6 どのようなところが便利（又は不便）と感じますか？（自由記述）

○伊豆長岡温泉は、バスの便数も確保されており、市街地と観光地がコンパクトにまとまっていることなどから、不便に感じないという意見が複数あります。

公共交通の運行本数について

どのようなところが便利(不便)か	性別	年齢	居住地
意外と便数がある。旅行先では便の良さは求めているので十分	男性	30代	静岡県
初めて来たが結構便はある。移動もしやすい	女性	20代	静岡県
特に外出しなかったが、このくらいの便数で十分	女性	70代	東京都
バスの待ち時間が長い	女性	40代	兵庫県
本数が少ない	女性	60代	神奈川県
本数が少なそう	女性	50代	東京都

公共交通の利便性について

どのようなところが便利(不便)か	性別	年齢	居住地
駅前にバスがあって良い。旅行先ではバスとタクシーを使う	女性	60代	東京都
何度も来ているので把握している。不便には感じない	男性	50代	茨城県
街全体でそこまで不便さは感じない	男性	70代	神奈川県
歩いてそんなに遠く感じなかった	女性	20代	神奈川県
思っていたより不便ではない。レンタサイクルの時間が短いのでは	男性	70代	埼玉県
駅からパノラマパークまでの交通手段がわかりづらい	女性	40代	神奈川県

鉄道について

どのようなところが便利(不便)か	性別	年齢	居住地
JR三島駅から伊豆箱根鉄道へのアクセス、障がい者には不便	女性	60代	静岡県
PASMO(ICカード)が使えないのは不便	女性	30代	東京都
伊豆箱根鉄道とJRの接続をもっとスムーズにしてほしい	男性	30代	東京都
電車が揺れた。特に後ろの車両が揺れが大きい	女性	70代	埼玉県

観光型周遊バスについて

どのようなところが便利(不便)か	性別	年齢	居住地
周遊バスの乗り継ぎが悪い。駅に着いたタイミングで行ってしまった	男性	50代	東京都
周遊バスの便数が少ない。なければタクシーを使う	女性	40代	東京都

タクシーや旅館の送迎について

どのようなところが便利(不便)か	性別	年齢	居住地
ホテルの送迎があるので不便には感じない	女性	60代	東京都
送迎サービスが良かった	女性	40代	外国
タクシーが融通をきかせてくれる	女性	50代	東京都

その他

どのようなところが便利(不便)か	性別	年齢	居住地
そもそもあまり出歩かない	女性	40代	東京都
ハイキングコースの下見として来た。東京から日帰りで来れる	男性	50代	東京都
バスでの移動が多そう	女性	20代	東京都
バスの数があると良い。JRの乗り換えが不便だった	男性	40代	岡山県

(7)調査結果まとめ

- 伊豆長岡駅を利用する観光客（以下観光客とする）は、旅館の送迎バスや路線バス、タクシー等の公共交通機関を利用して市内を移動していると推察されます。
- 観光客は、現在の移動手段にあまり不便に感じていないものの、訪問先によっては、旅館や駅から離れており、バスの便数も少ないことから不便に感じることもあると推察されます。
- 観光客の70%以上の目的が「温泉に入ること」であり、多くが「おいしいものを食べる」とセットで回答していることから、観光客の移動が旅館と駅との往復に留まっていると推察されます。
- そこで、公共交通を利用した観光客の周遊を図るためには、旅館等の観光業者と連携した施策が必要と考えられます。

6-3 調査票

伊豆の国市 観光と交通に関するアンケート調査のお願い

現在、伊豆の国市では、観光客の移動実態を把握し、今後の交通や観光施策に活用するため、観光目的で訪れた皆様を対象に、アンケート調査を実施しています。誠に恐れ入りますが、調査の趣旨にお理解を賜り、何卒ご協力くださいますようお願い申し上げます。

問1 今回の旅行は何名でお越しですか。(1つに○)

1. 1人旅	2. 2名	3. 3名	4. 4名	5. 5名以上
--------	-------	-------	-------	---------

問2 本地域では何を楽しみにしていましたか(楽しみですか)?(あてはまるもの全てに○)

1. 名所旧跡(史跡、神社仏閣、歴史景観など)を見ること	8. 温泉に入ること
2. 自然景観を見ること	9. おいしいものを食べる
3. 観光・文化施設を訪れること	10. 買い物をすること
4. スポーツ施設(ゴルフやアクティビティなど)を訪れること	11. 地域の祭りやイベントに参加すること
5. 街や都市を訪れること	12. 帰省、冠婚葬祭関係
6. 自然の豊かさを体験すること	13. 親族や知人への訪問
7. 地域の文化を体験すること	14. その他()

問3 本地域ではどこを訪れましたか(訪れますか)?(あてはまるもの全てに○)

1. 温泉(伊豆長岡 大仁 畑毛)	2. 神社仏閣(願成就院 眞珠院 北条寺 香山寺 豆塚神社)
3. 葦山反射炉	4. 江川邸
5. 観光施設(伊豆パノラマパーク 道の駅いずのへそ 蔵屋鳴沢)	
6. その他(訪問した店舗名など:)	

問4 主な訪問先への移動手段を教えてください。(あてはまるもの全てに○)

1. バス	2. タクシー	3. レンタカー	4. レンタサイクル	5. 旅館などの無料送迎バス
6. 自家用車	7. 徒歩	8. その他()		

問5 主な訪問先への交通は便利だと思いますか?(1つに○)

便利	やや便利	どちらでもない	やや不便	不便
5	4	3	2	1

問6 どのようなところが便利(又は不便)と感じますか?(自由記述 例:近くまで行ける、待ち時間が長い)

・
・

問7 お答えいただいたご本人様の性別、年齢、居住地を教えてください。

性別	<u>男・女</u>	年齢	<u> </u> 代(例:50代等でお答えください)	居住地	<u> </u> 都・道・府・県
----	------------	----	-------------------------------	-----	---------------------

7. 観光事業者ヒアリング調査結果

市民アンケート調査等では現れてこない観光事業者の潜在的な課題を把握するため、2023年9月に伊豆長岡駅から送迎サービスを実施している旅館14者のうち、ヒアリングへの協力を承諾いただいた3者に対して調査を行いました。ヒアリング調査結果の概要は以下の通りです。

■旅館等の送迎サービスの概要

- ・ヒアリングした各旅館の送迎サービスは要予約、1～3組/日が多い。
- ・専属の担当者はおらず、手の空いている職員で対応している。

■旅館等の送迎サービスの送迎先、使用車両について

- ・送迎先は伊豆長岡駅が多い。市内観光地や三島駅への送迎対応を行う場合もある。
- ・使用車両は定員8～10人のワゴン車。

■旅館等の送迎サービスの負担度

- ・負担度は旅館によりさまざまだが、職員が対応するため負担は少なからずある。

■旅館等の送迎サービスの代替となる取組への関心について

- ・効率の良い仕組みができること、宿泊客の来館の選択肢が増えることは良い。
- ・新たな取組みを行うのであれば、多くの旅館等の参画や費用対効果の検討も必要になるのではないか。

参考資料

1. 策定体制

本計画は、伊豆の国市地域公共交通会議での協議を経て策定しました。

【伊豆の国市地域公共交通会議委員】令和6年3月時点

選出区分	委員所属組織	役職	氏名
市長又はその指名する者	伊豆の国市	副市長	磯崎 猛
一般旅客自動車運送業者の代表者	伊豆箱根バス株式会社	三島営業所長	岩崎 勝一
	株式会社東海バス	取締役 修善寺営業所長	青木 守
	株式会社寺山自動車	取締役	寺山 冗二
	伊豆箱根交通株式会社	常務取締役	山田 良生
市民及び利用者の代表者	千代田区	区長	川嶋 正二
	奈古谷区	代表(相談役)	石渡 宏
	浮橋区	区長	西島 逸郎
	星の花号コミュタク委員会	会長	市川 仁
	シニアクラブ伊豆の国	長岡支部長	石川 博文
	市PTA連絡協議会	会長	久保田 雅也
一般旅客自動車運送事業者の組織する団体の代表者	一般社団法人静岡県バス協会	専務理事	堀内 哲郎
一般旅客自動車運送事業の運転手が組織する団体の代表者	東海自動車労働組合	執行委員長	三枝 哲哉
大仁警察署長又はその指名する者	伊豆中央警察署	交通課長	下位 明聡
中部運輸局静岡運輸支局長又はその指名する者	中部運輸局静岡運輸支局	主席運輸企画専門官	原田 光一郎
静岡県の関係行政機関の職員	静岡県交通基盤部都市局地域交通課	課長	平野 隆広
	静岡県沼津土木事務所工事第2課	課長	藤牧 義久
市職員	伊豆の国市教育部	部長	佐藤 政志
	伊豆の国市健康福祉部	部長	浜村 正典
	伊豆の国市都市整備部	部長	西島 和仁
学識経験者	日本大学理工学部	特任教授	藤井 敬宏
公共交通会議の運営上市長が必要と認める者	伊豆箱根鉄道株式会社	鉄道部運輸課長	三枝 弘明

2. 策定の経緯

本計画は、以下のような経緯を経て策定しました。

年	月	内容
令和4年	12月～翌年2月	公共交通に係る地区座談会の開催
令和5年	6月	市民アンケート調査
	7月	観光客ヒアリング調査 交通事業者ヒアリング調査
	8月	第1回伊豆の国市地域公共交通会議 (計画の概要、現況と課題に関する意見聴取)
	9月	観光事業者ヒアリング調査
令和6年	11月	第2回伊豆の国市地域公共交通会議 (計画の基本方針と目標、目標達成に向けた事業に関する意見聴取)
	1月	第3回伊豆の国市地域公共交通会議 (目標の評価指標と進捗管理に関する意見聴取)
	2月	パブリックコメントの実施
	3月	伊豆の国市地域公共交通計画の策定

伊豆の国市地域公共交通計画 資料編

発行 伊豆の国市協働まちづくり課

〒410-2292 静岡県伊豆の国市長岡 340 番地の1

TEL: 055-948-1412 FAX: 055-948-2915

E-mail: kyoudou@city.izunokuni.shizuoka.jp

令和6年3月